

山梨県 御中

人口減少・少子化対策に向けた 県民アンケート調査業務

報告書

令和5年3月

FUJITSU

株式会社富士通総研

【目次】

1. 調査概要	2
2. 調査項目	2
3. 回答者の内訳	3
4. 調査結果	4
(1) 性別	4
(2) 年齢	4
(3) 既婚/未婚	4
(4) 同居家族	6
(5) 配偶者の家事や育児への協力の程度	7
(6) 回答者の現在の就業形態	8
(7) 配偶者の現在の就業形態	10
(8) 回答者の就労時間	11
(9) 回答者の配偶者の就労時間	12
(10) 年収	13
(11) 世帯年収	15
(12) 結婚の希望	18
(13) 結婚していない理由	23
(14) 交際相手の有無	31
(15) 恋人の希望	33
(16) 異性の恋人がほしいのに実際にはいない理由	36
(17) 配偶者と知り合ったきっかけ	39
(18) 予定子ども数・理想的な子ども数	40
(19) 理想的な子どもの数が0人か、予定子ども数を上回っている理由	43
(20) 子育てや教育にかかる負担の内容	47
(21) 婚外子について	50
(23) 自由回答（県に求める支援策）	51
5. (参考) 回帰分析	53
6. 今後に向けた示唆	55
7. 調査画面	58

1. 調査概要

調査名	山梨県民の結婚・妊娠・出産、子育てに関するアンケート
調査目的	全国規模で少子化が深刻化していることを踏まえ、県の人口推計や、今後の県の少子化対策に係る施策の検討に活かすため
調査期間	令和5年2月3日（金）～令和5年2月10日（金）
調査対象	20-54歳の山梨県民1,060人
調査方法	Webアンケート調査（調査会社の登録モニターに回答を依頼） 質問数全24問

2. 調査項目

問番号	分類	形式	回答対象			質問
			未婚	既婚	他条件	
SQ1	スクリーニング	SA	○	○		性別
SQ2		NA	○	○		年齢
SQ3		SA	○	○		居住地(都道府県)
SQ4		SA	○	○		未婚/既婚
Q1	属性情報	MA(子の数はNA)	○	○		同居家族
Q2		SA		○		配偶者の家事や育児への協力の程度
Q3		SA	○	○		現在の就業形態(本人)
Q4		SA		○		現在の就業形態(配偶者)
Q5		NA	○	○	Q3「専業主婦・主夫」「学生・生徒」「無職」以外	1日(就業日)の就労時間(残業も含む、本人)
Q6		NA		○	Q4「専業主婦・主夫」「学生・生徒」「無職」以外	1日(就業日)の就労時間(残業も含む、配偶者)
Q7		NA	○	○	Q3「専業主婦・主夫」「学生・生徒」「無職」以外	今年の年収
Q8		NA	○	○	Q1「同居家族はいない」以外	今年の世帯年収
Q9	未婚者の結婚に対する意識について	SA	○			結婚の意思
Q10		MA	○			結婚していない理由
Q11	未婚者の恋愛に対する意識について	SA	○			恋人の有無
Q12		SA	○		Q11で「恋人として交際している者はいないが、友人として交際している異性がいる」または「恋人として交際している者や、友人として交際している異性はいない」	恋人の希望
Q13		MA(3つまで)	○		Q12で「はい」	恋人が欲しいのにいない理由
Q14	既婚者の出会いの場について	SA		○		配偶者と知り合ったきっかけ
Q15	出産に対する意識について	NA	○	○		予定子ども数
Q16		NA	○	○		理想的な子ども数
Q17		MA(3つまで)	○	○	(Q15の値)<(Q16の値)またはQ16が0	予定子ども数が理想的な子ども数を下回っているか、理想的な子ども数が0人の理由
Q18		MA(3つまで)	○	○	Q17で「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」	子育てや教育にお金がかかりすぎる理由
Q19	婚外子につ	SA	○			婚外子についての考え方

問番号	分類	形式	回答対象			質問
			未婚	既婚	他条件	
	いて					
Q20	自由意見	FA	○	○		自由意見(県に求める支援策)

※SA は単一選択、MA は複数選択、NA は数値回答、FA は自由回答を指す

※設問文や選択肢、設問の表示条件は「7. 調査画面」参照

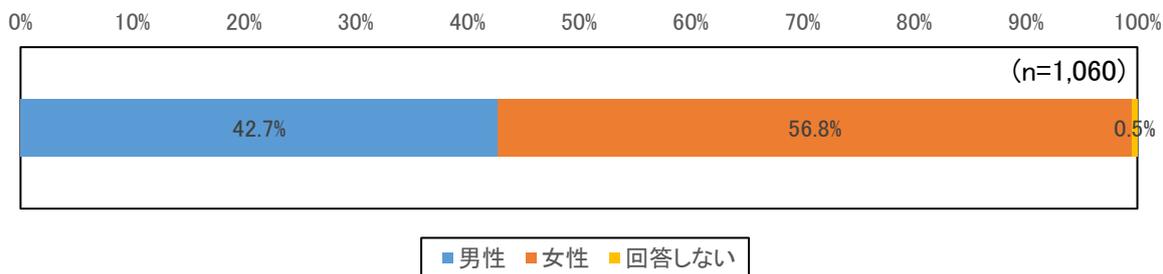
3. 回答者の内訳

			度数	構成比
既婚	男性	20～24 歳	1	0.1%
		25～29 歳	3	0.3%
		30～34 歳	12	1.1%
		35～39 歳	23	2.2%
		40～44 歳	44	4.2%
		45～49 歳	85	8.0%
		50～54 歳	79	7.5%
	女性	20～24 歳	6	0.6%
		25～29 歳	27	2.5%
		30～34 歳	52	4.9%
		35～39 歳	48	4.5%
		40～44 歳	71	6.7%
		45～49 歳	93	8.8%
		50～54 歳	57	5.4%
	回答しない	20～24 歳	0	0.0%
		25～29 歳	0	0.0%
		30～34 歳	0	0.0%
35～39 歳		0	0.0%	
40～44 歳		0	0.0%	
45～49 歳		1	0.1%	
50～54 歳		0	0.0%	
未婚	男性	20～24 歳	4	0.4%
		25～29 歳	8	0.8%
		30～34 歳	16	1.5%
		35～39 歳	34	3.2%
		40～44 歳	40	3.8%
		45～49 歳	46	4.3%
		50～54 歳	58	5.5%
	女性	20～24 歳	40	3.8%
		25～29 歳	33	3.1%
		30～34 歳	32	3.0%
		35～39 歳	33	3.1%
		40～44 歳	36	3.4%
		45～49 歳	30	2.8%
		50～54 歳	44	4.2%
	回答しない	20～24 歳	0	0.0%
		25～29 歳	0	0.0%
		30～34 歳	1	0.1%
35～39 歳		2	0.2%	
40～44 歳		0	0.0%	
45～49 歳		1	0.1%	
50～54 歳		0	0.0%	
合計			1,060	100.0%

4. 調査結果

(1) 性別

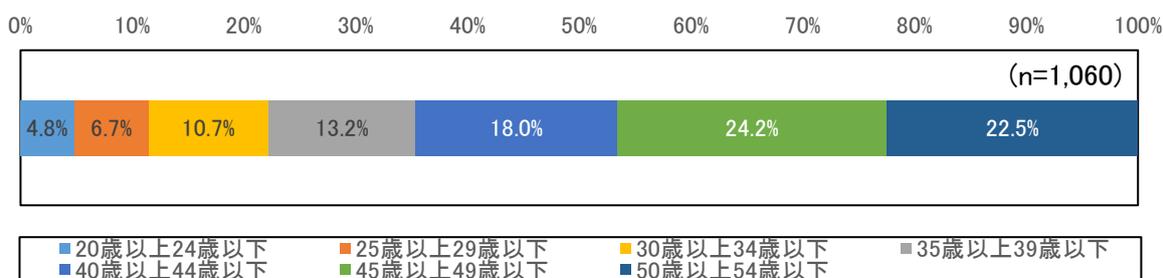
回答者の 42.7%が男性、56.8%が女性であった。



(2) 年齢

回答者の平均年齢は 41.44 歳であった。

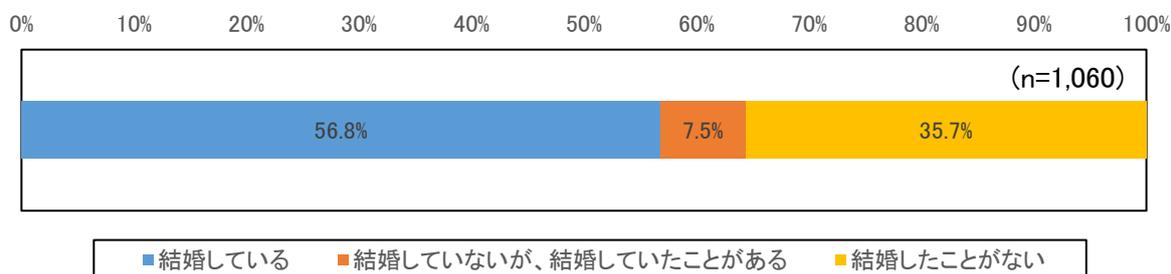
5 歳階級別に年齢構成を見ると、45 歳以上 49 歳以下の回答者が 24.2%と最も多く、次いで 50 歳以上 54 歳以下の回答者が 22.5%と多かった。



(3) 既婚/未婚

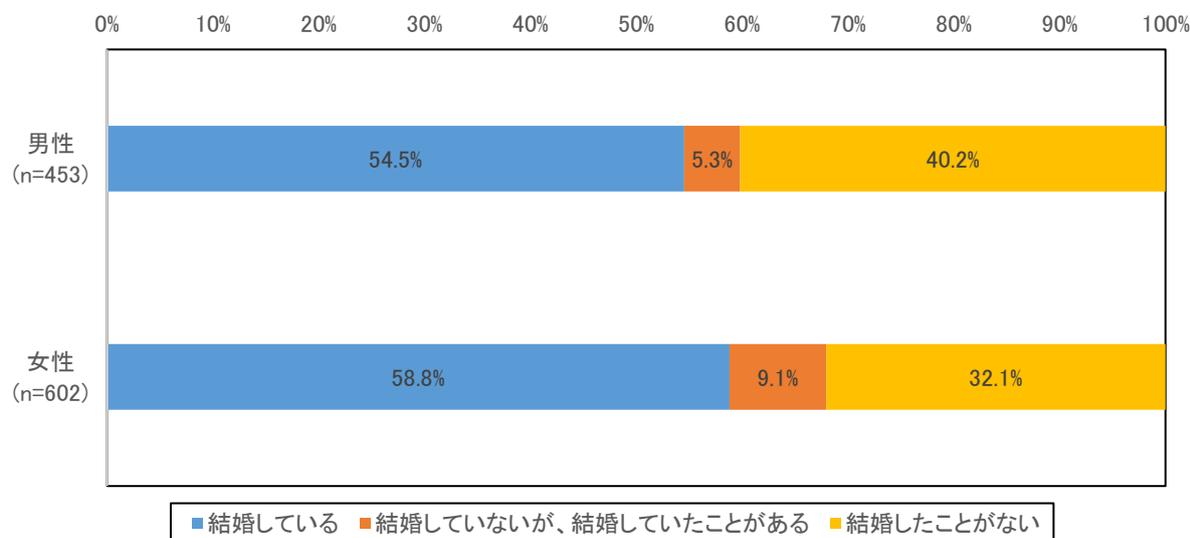
① 単純集計

既婚か未婚かの問いに対し、「結婚している」が 56.8%、「結婚していないが、結婚していたことがある」が 7.5%、「結婚したことがない」が 35.7%であった。



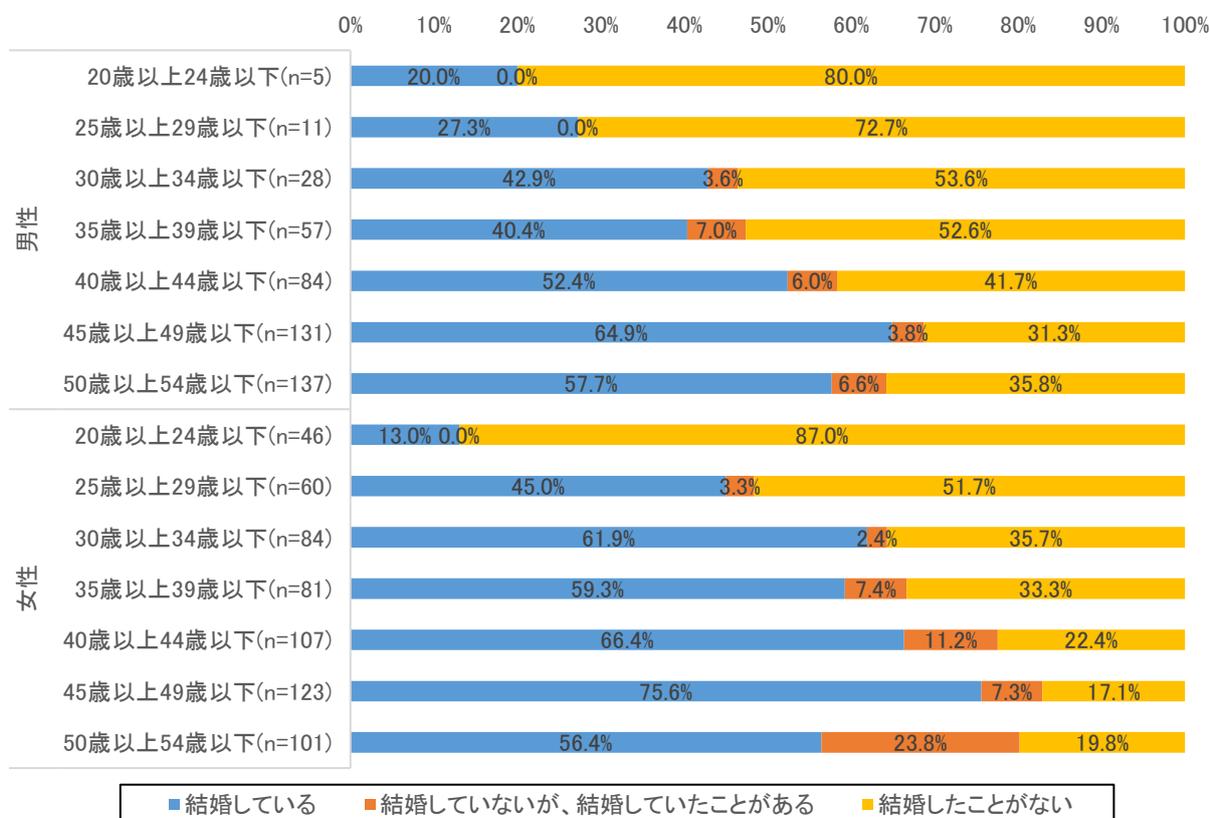
②男女別の既婚/未婚

男女別に集計すると、「結婚している」と「結婚していないが、結婚していたことがある」は女性の方が多く、「結婚していない」は男性の方が多かった。



③男女別・年齢別の既婚/未婚

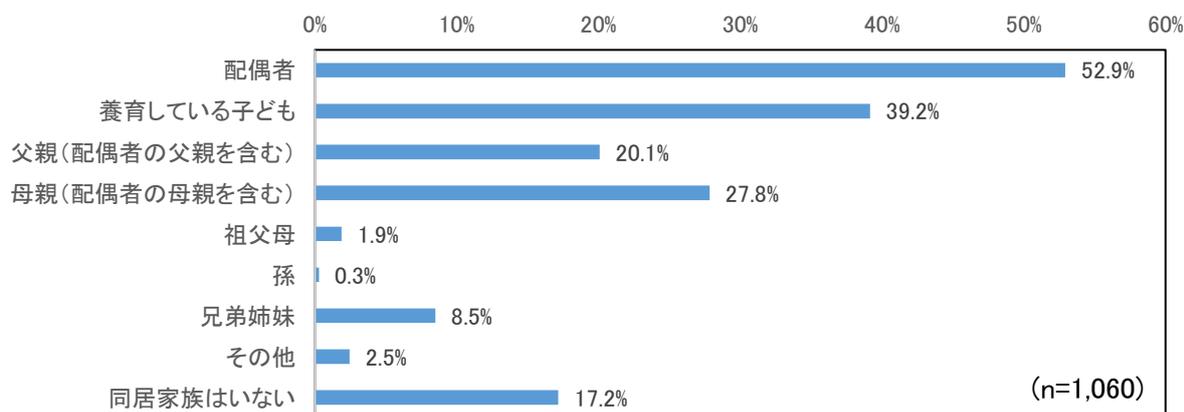
サンプルが少なく参考値となる年代もあるものの、男女別・年齢別に集計すると、以下の通りであった。



(4) 同居家族

① 単純集計

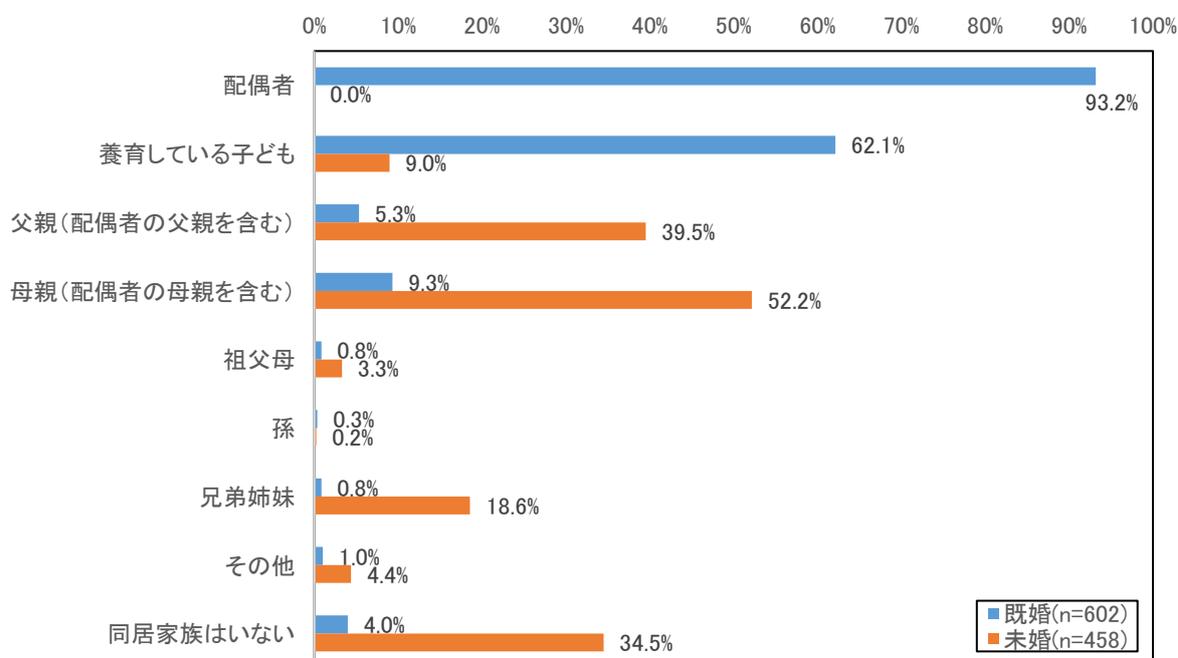
回答者の同居家族について、配偶者と同居している者は 52.9%、養育している子どもと同居している者は 39.2%、父親(配偶者の父親を含む)と同居している者は 20.1%、母親(配偶者の母親を含む)と同居している者は 27.8%、祖父母と同居している者は 1.9%、孫と同居している者は 0.3%、兄弟姉妹と同居している者は 8.5%であった。「その他」の内容としては、主に「恋人」等が挙げられた。同居家族がいない者は 17.2%いた。



② 既婚/未婚別の同居家族

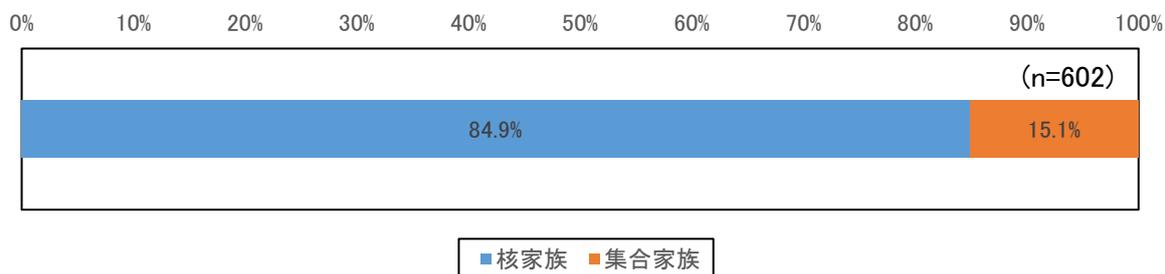
既婚者は配偶者(93.2%)、養育している子ども(62.1%)と同居している者が多かった。

未婚者は父親(39.5%)、母親(52.2%)と同居している者、独居(同居家族はいない 34.5%)が多かった。



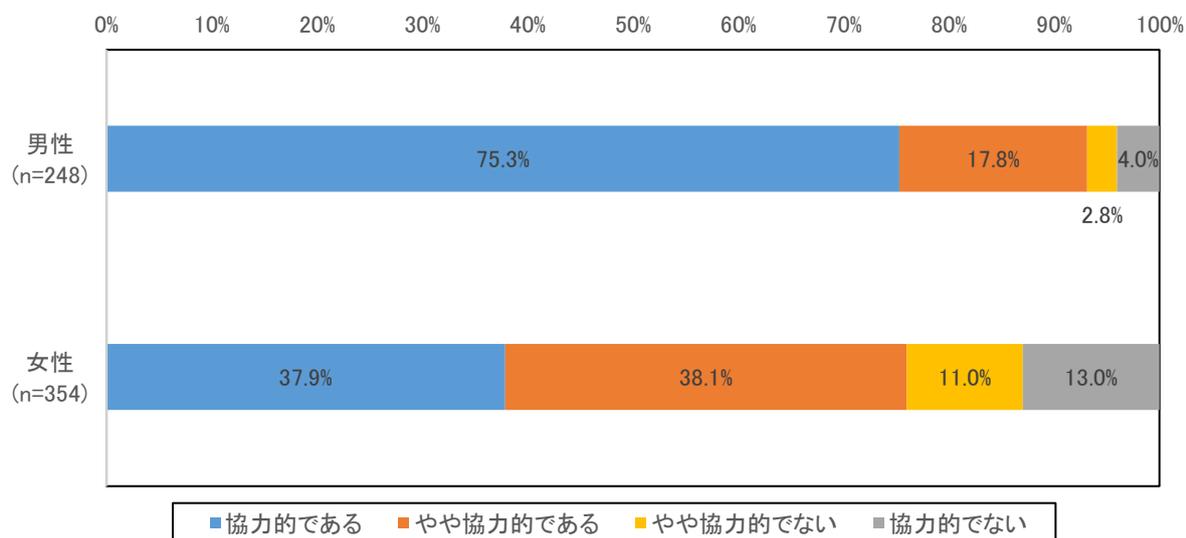
③核家族/集合家族

既婚者について、「配偶者」「養育している子ども」以外の者と同居していない者を核家族、している者を集合家族としたところ、核家族が84.9%、集合家族が15.1%となった。



(5) 配偶者の家事や育児への協力の程度

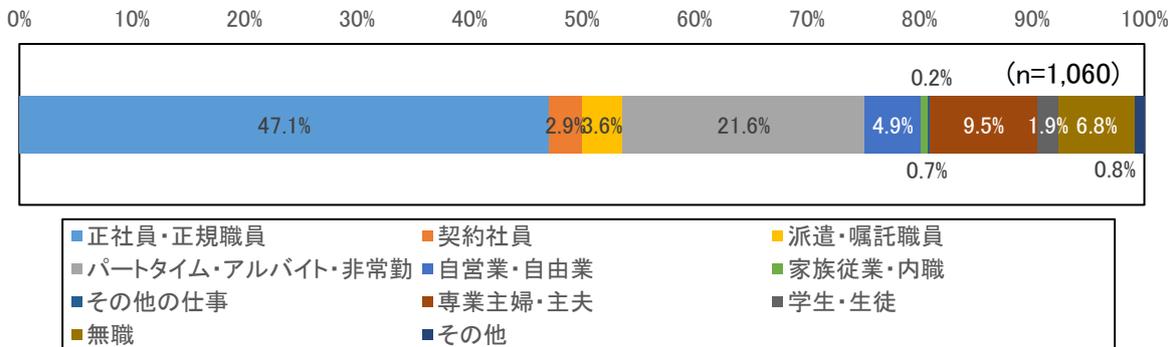
男女別に配偶者の家事や育児への協力の程度を尋ねたところ、「協力的・やや協力的である」を合わせた割合が、男性では93.1%であったのに対し、女性では76.0%にとどまった。



(6) 回答者の現在の就業形態

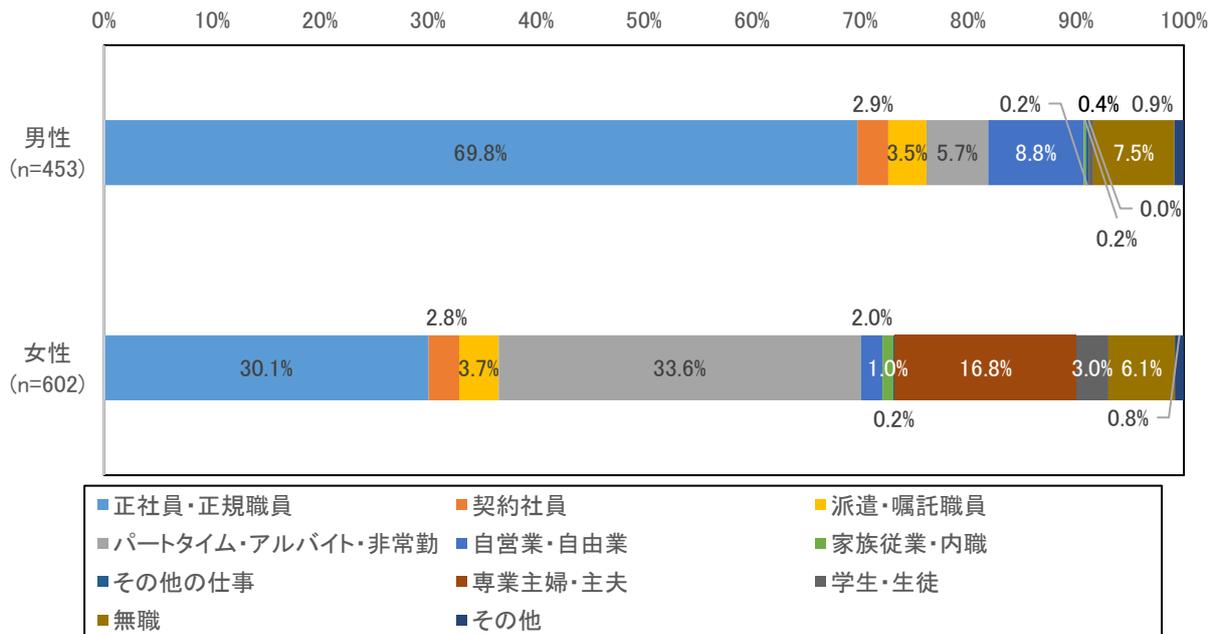
① 単純集計

最も多いのは「正社員・正規職員」(47.1%)であり、次いで「パートタイム・アルバイト・非常勤」(21.6%)が多かった。



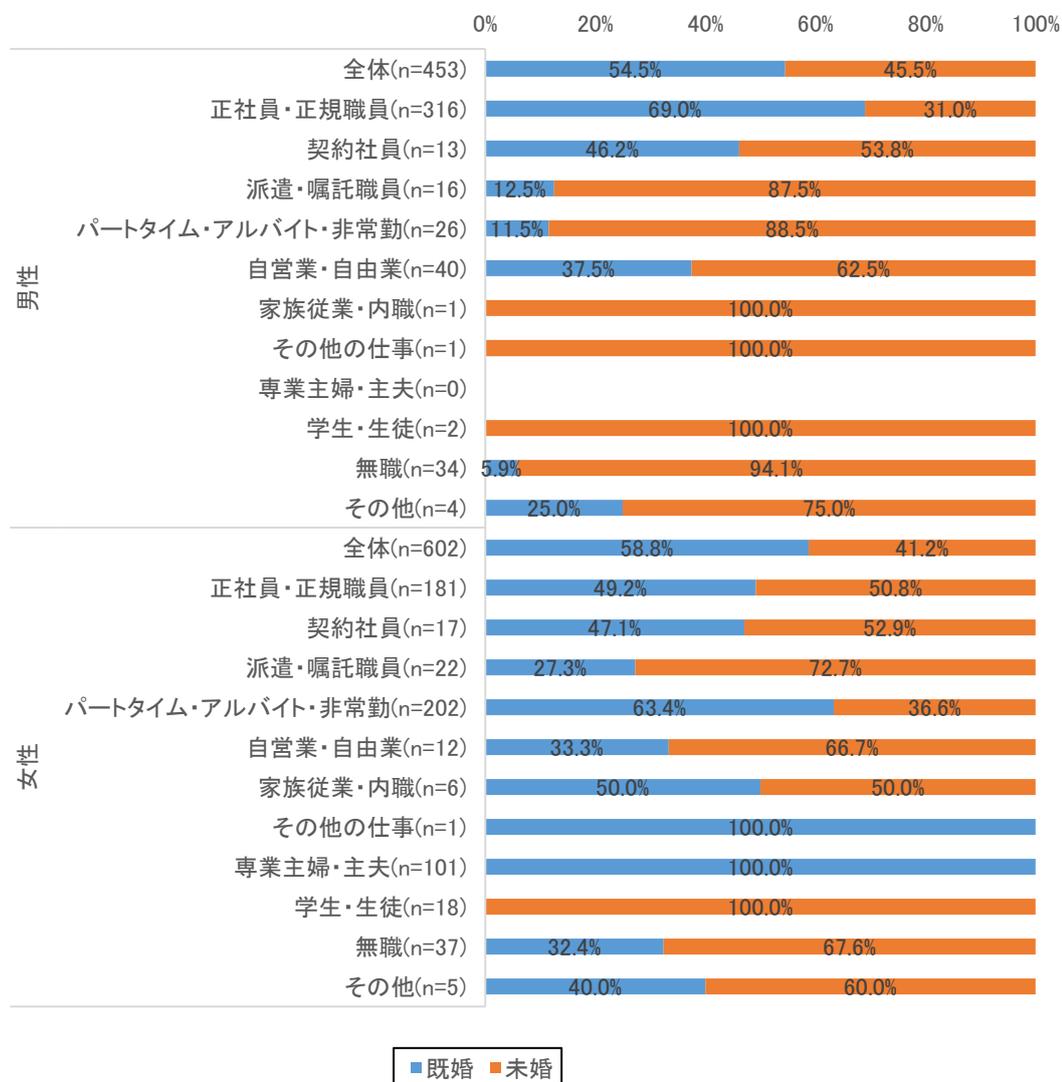
② 男女別の現在の就業形態

男女別に現在の就業形態を見ると、男性は「正社員・正規職員」が69.8%と最も多く、次いで「自営業・自由業」が8.8%と多かった。女性は「パートタイム・アルバイト・非常勤」が33.6%と最も多く、次いで「正社員・正規職員」が30.1%と多かった。



③男女別の現在の就業形態と既婚/未婚との関係

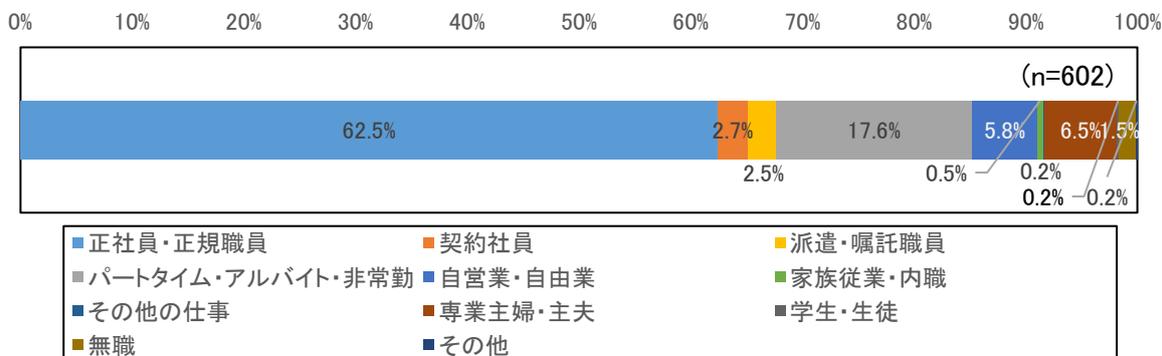
男性については、正社員・正規職員の場合には既婚者の割合が男性全体の割合より大きく、未婚者の割合が男性全体の割合より小さい。正社員・正規職員以外は、すべて既婚者の割合が男性全体の割合より小さく、未婚者の割合が男性全体の割合より大きい。



(7) 配偶者の現在の就業形態

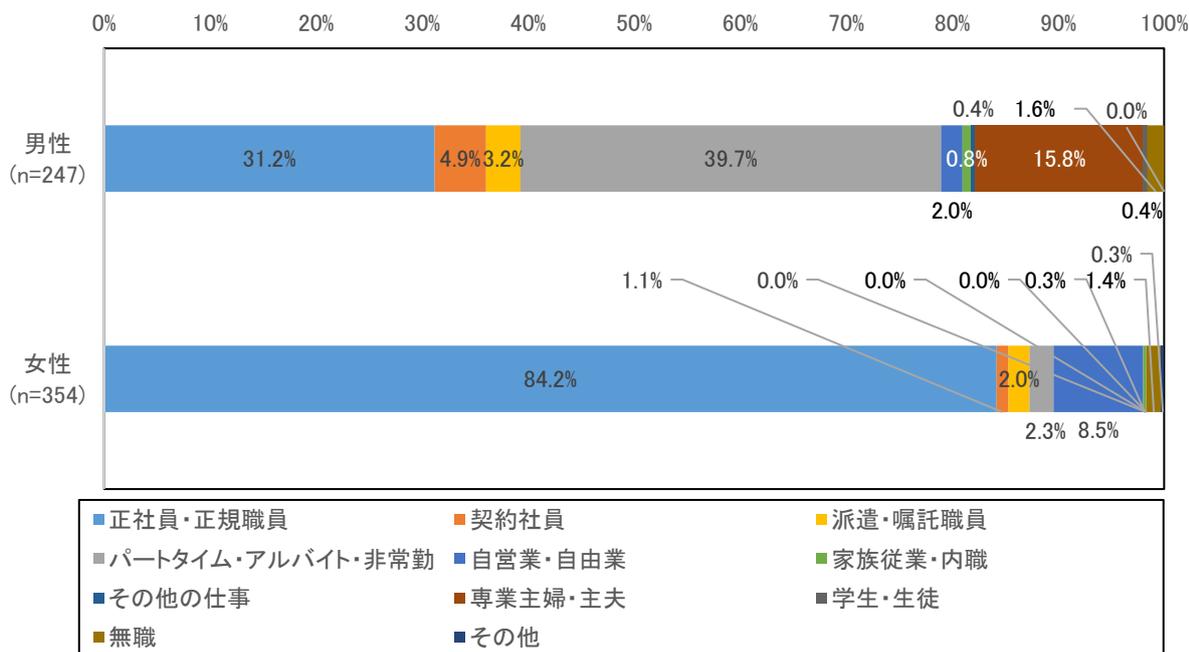
① 単純集計

最も多いのは「正社員・正規職員」(62.5%)であり、次いで「パートタイム・アルバイト・非常勤」(17.6%)が多かった。



② 男女別の配偶者の現在の就業形態

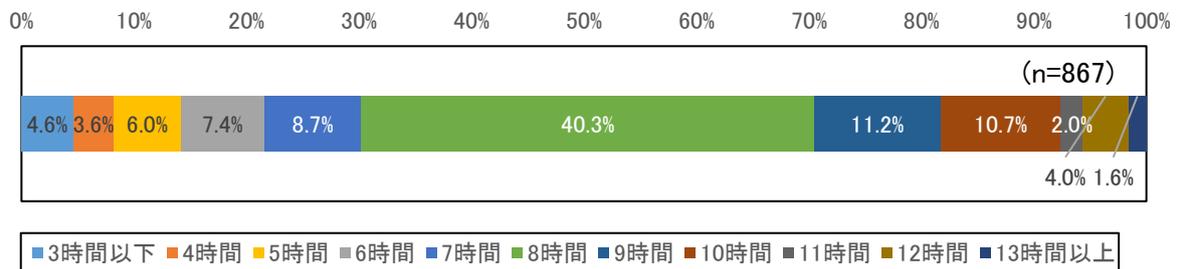
男女別に配偶者の現在の就業形態を見ると、男性は「パートタイム・アルバイト・非常勤」が39.7%と最も多く、次いで「正社員・正規職員」が31.2%と多かった。女性は「正社員・正規職員」が84.2%と最も多く、次いで「自営業・自由業」が8.5%と多かった。



(8) 回答者の就労時間

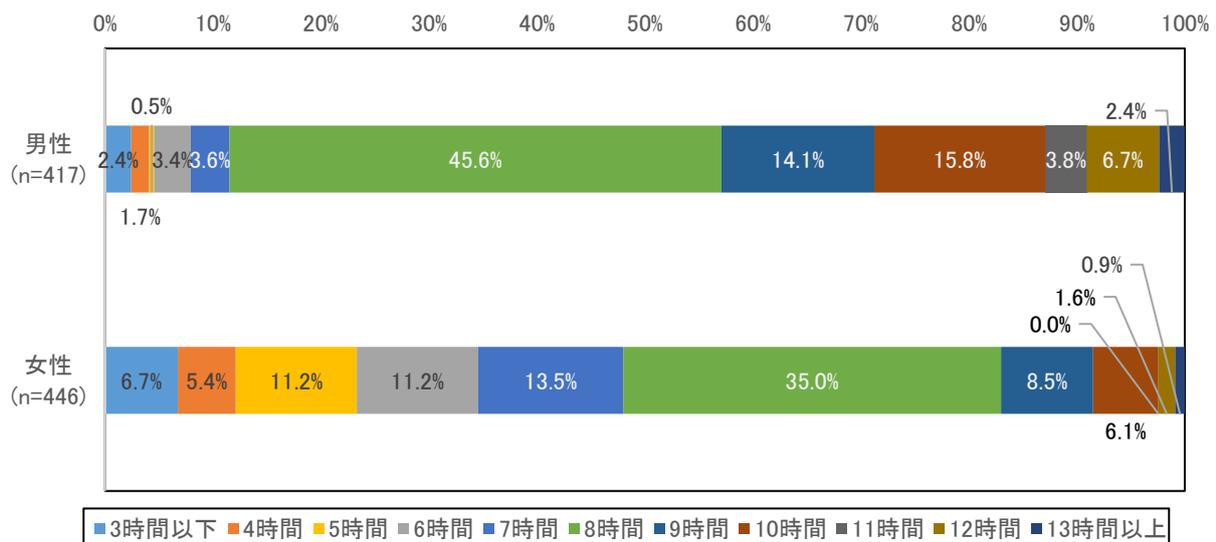
① 単純集計

平均就労時間は 7.86 時間であった。四捨五入して 8 時間の者が最も多く (40.3%)、次いで 9 時間の者が多かった (11.2%)。



② 男女別の就労時間

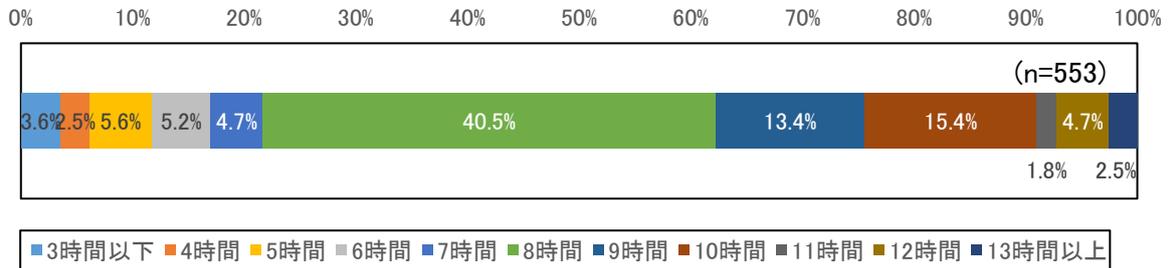
男女別の平均就労時間は、男性が 8.71 時間、女性が 7.06 時間であった。男性については、四捨五入して 8 時間の者が最も多く (45.6%)、次いで 10 時間の者が多かった (15.8%)。女性については、四捨五入して 8 時間の者が最も多く (35.0%)、次いで 7 時間の者が多かった (13.5%)。



(9) 回答者の配偶者の就労時間

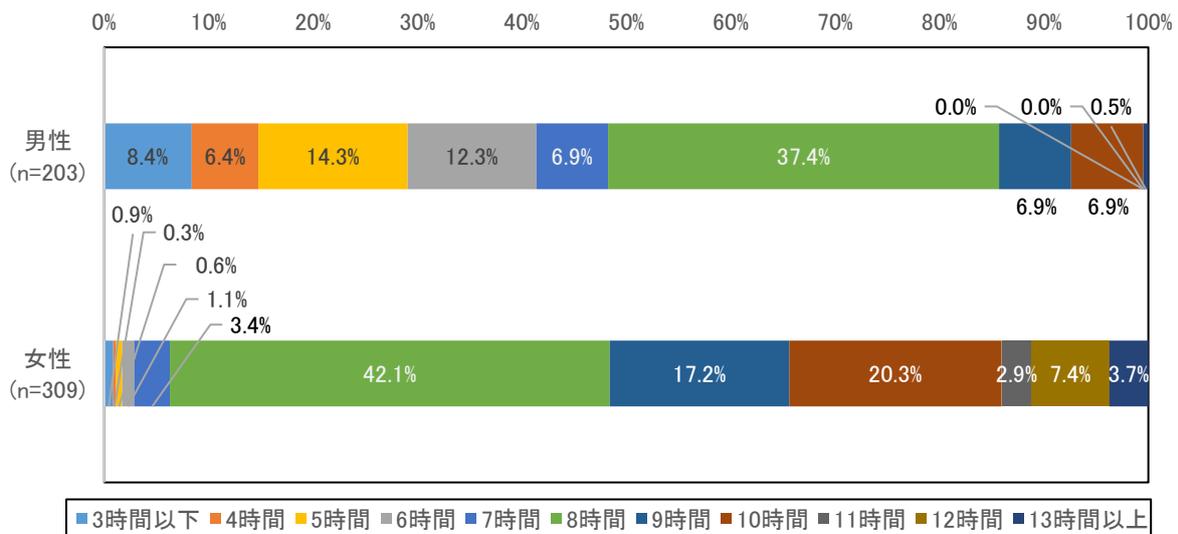
① 単純集計

平均就労時間は 8.23 時間であった。四捨五入して 8 時間の者が最も多く (40.5%)、次いで 10 時間の者が多かった (15.4%)。



② 男女別の配偶者の就労時間

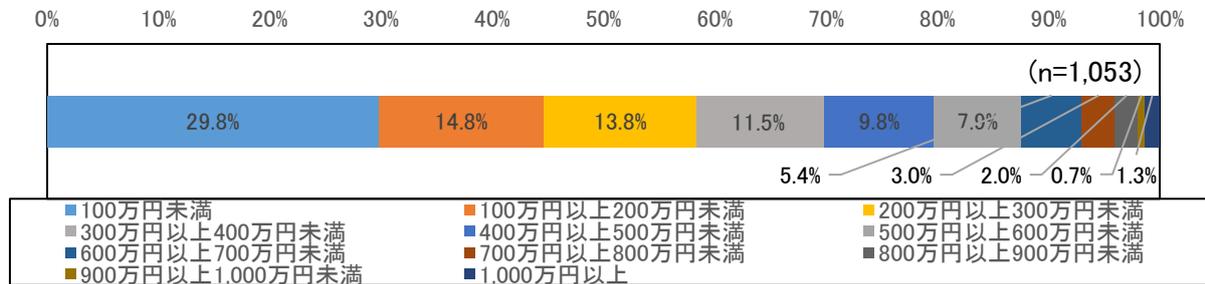
男女別に配偶者の就労時間を見ると、男性にとっての配偶者の平均就労時間は 6.73 時間、女性にとっての配偶者の平均就労時間は 9.10 時間であった。男性にとっての配偶者(女性)については、四捨五入して 8 時間の者が最も多く (37.4%)、次いで 5 時間の者が多かった (14.3%)。女性にとっての配偶者(男性)については、四捨五入して 8 時間の者が最も多く (42.1%)、次いで 10 時間の者が多かった (20.3%)。



(10) 年収

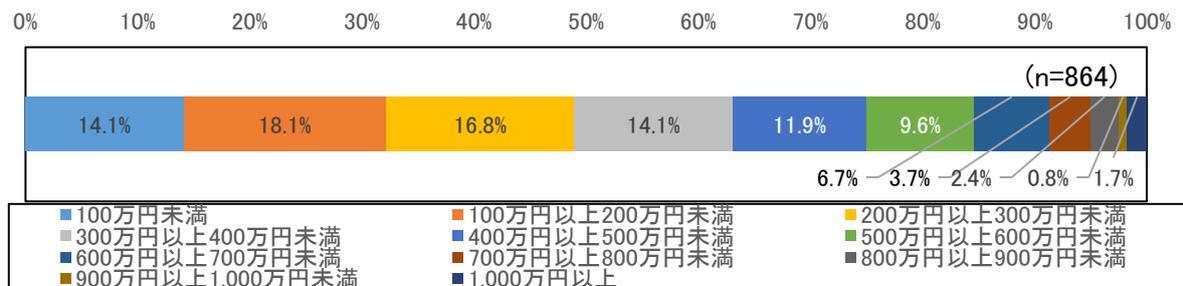
①単純集計

平均年収は270.70万円だった。最も多いのは100万円未満(29.8%)、次いで多いのは100万円以上200万円未満(14.8%)であった。



②就労者の年収

就労している者に限定して集計すると、平均年収は340.27万円だった。最も多いのは100万円以上200万円未満(18.1%)、次いで多いのは200万円以上300万円未満(16.8%)であった。



③就業形態別の平均年収

就業形態別の年収は下表の通りであった。

		該当数	平均値
Q3(就業形態)	正社員・正規職員	496	453.79
	契約社員	31	234.19
	派遣・嘱託職員	38	205.87
	パートタイム・アルバイト・非常勤	227	125.96
	自営業・自由業	51	274.16
	家族従業・内職	7	117.00
	その他の仕事	2	60.00
	専業主婦・主夫	101	0.00
	学生・生徒	20	0.00
	無職	71	0.00
	その他	9	152.11

④男女・年齢別の平均年収

男女・年齢別の平均年収は下表の通りであった。

			該当数	平均値
SQ1(性別)× SQ2(年齢)	男性	20歳以上24歳以下	5	160.60
		25歳以上29歳以下	11	285.45
		30歳以上34歳以下	27	385.93
		35歳以上39歳以下	56	357.30
		40歳以上44歳以下	84	446.04
		45歳以上49歳以下	130	449.76
		50歳以上54歳以下	137	425.77
	女性	20歳以上24歳以下	46	69.89
		25歳以上29歳以下	59	206.27
		30歳以上34歳以下	83	173.78
		35歳以上39歳以下	81	146.80
		40歳以上44歳以下	107	167.74
		45歳以上49歳以下	121	173.69
		50歳以上54歳以下	101	148.44

⑤男女・既婚/未婚別の平均年収

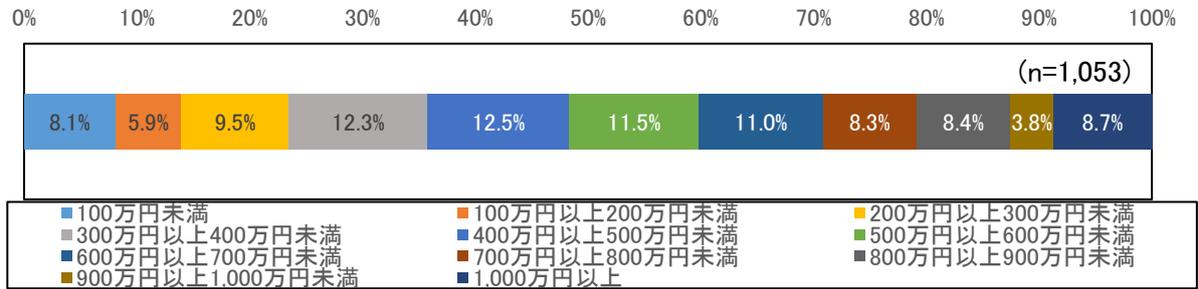
男女・既婚/未婚別の平均年収は下表の通りであった。

			該当数	平均値
SQ1(性別)× SQ4(既婚/未 婚)	男性	既婚	246	519.93
		未婚	204	297.72
	女性	既婚	352	135.03
		未婚	246	195.63

(11) 世帯年収

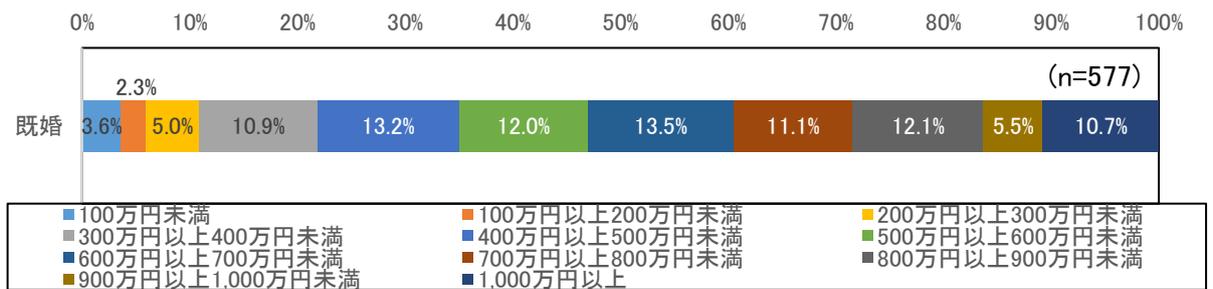
① 単純集計

平均世帯年収は 518.93 万円だった。最も多いのは 400 万円以上 500 万円未満 (12.6%)、次いで多いのは 600 万円以上 700 万円未満 (12.0%) であった。



② 既婚者の世帯年収

既婚者を対象に世帯年収を調査したところ、平均世帯年収は 604.06 万円だった。最も多いのは 600 万円以上 700 万円未満 (13.5%) であり、次いで多いのは 400 万円以上 500 万円未満 (13.2%) であった。



③回答者及び配偶者の就業形態別の平均世帯年収

回答者及び配偶者の就業形態別の平均世帯年収は下表の通りであった。該当数に注目すると、共に正社員・正規職員の夫婦が最も多く、次いで正社員・正規職員とパートタイム・アルバイト・非常勤の夫婦、正社員・正規職員と専業主婦・主夫の夫婦が多いことが分かった。

		該当数	平均値			該当数	平均値	
Q3(就業形態)×Q4(配偶者の就業形態)	正社員・正規職員	正社員・正規職員	137	844.61	その他の仕事	正社員・正規職員	1	1300.00
		契約社員	11	618.18		契約社員		
		派遣・嘱託職員	9	663.11		派遣・嘱託職員		
		パートタイム・アルバイト・非常勤	83	714.70		パートタイム・アルバイト・非常勤		
		自営業・自由業	8	708.75		自営業・自由業		
		家族従業・内職	2	750.00		家族従業・内職		
						その他の仕事		
		専業主婦・主夫	35	602.26		専業主婦・主夫		
		学生・生徒	1	1100.00		学生・生徒		
				無職				
				その他				
	契約社員	正社員・正規職員	7	691.43	専業主婦・主夫	正社員・正規職員	88	600.59
		契約社員	1	400.00		契約社員	1	400.00
						派遣・嘱託職員	2	285.00
		パートタイム・アルバイト・非常勤	2	450.00		パートタイム・アルバイト・非常勤	2	60.00
		自営業・自由業	3	500.00		自営業・自由業	5	265.00
						家族従業・内職	1	400.00
		無職	1	230.00		その他の仕事		
				専業主婦・主夫				
	派遣・嘱託職員	正社員・正規職員	7	742.86	学生・生徒	正社員・正規職員		
						契約社員		
						派遣・嘱託職員		
		パートタイム・アルバイト・非常勤	1	310.00		パートタイム・アルバイト・非常勤		
						自営業・自由業		
						家族従業・内職		
				その他の仕事				
			専業主婦・主夫					
			学生・生徒					
			無職					
			その他					
パートタイム・アルバイト・非常勤	正社員・正規職員	107	512.09	無職	正社員・正規職員	9	287.78	
	契約社員	2	437.50		契約社員	1	900.00	
	派遣・嘱託職員	3	320.00		派遣・嘱託職員			
	パートタイム・アルバイト・非常勤	3	306.67		パートタイム・アルバイト・非常勤			
	自営業・自由業	10	428.00		自営業・自由業	1	50.00	
					家族従業・内職			
					その他の仕事			
	無職	1	250.00		専業主婦・主夫			
その他	1	300.00	学生・生徒					
			無職	2	0.00			
			その他					
自営業・自由業	正社員・正規職員	5	640.00	その他	正社員・正規職員	3	316.67	
	派遣・嘱託職員	1	380.00		契約社員			
	パートタイム・アルバイト・非常勤	5	382.00		派遣・嘱託職員			
	自営業・自由業	5	320.00		パートタイム・アルバイト・非常勤			
					自営業・自由業			
	専業主婦・主夫	3	823.33		家族従業・内職			
			その他の仕事					
			専業主婦・主夫					
			学生・生徒					
			無職					
			その他					
家族従業・内職	正社員・正規職員	1	100.00					
	自営業・自由業	2	560.00					

⑤ 予定子ども数・理想的な子ども数別の平均世帯年収

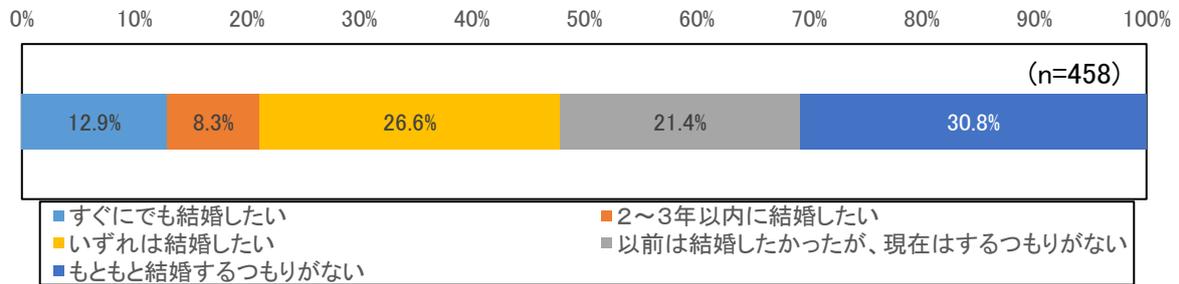
サンプルが少なく参考値となる人数はあるものの、予定子ども数・理想的な子ども数別の平均世帯年収は下表の通りであった、予定・理想共に0人が最も該当数が多く、次いで共に2人の者が多かった。それぞれの平均世帯年収は、403.88万円、549.55万円であった。

		該当数	平均値	
Q15(予定子ども数) × Q16(理想的な子ども数)	0人	0人	262	403.88
		1人	18	450.44
		2人	83	485.81
		3人	21	535.71
		4人	2	1725.00
	1人	0人	6	546.33
		1人	55	503.44
		2人	84	620.79
		3人	25	656.80
		5人以上	2	700.00
	2人	0人	6	281.67
		1人	2	150.00
		2人	237	549.55
		3人	83	614.87
	3人	0人	3	233.33
		1人	3	217.00
		2人	13	603.08
		3人	107	584.28
		4人	11	560.00
		5人以上	3	523.33
	4人	0人	1	300.00
		2人	1	400.00
		3人	5	879.00
		4人	7	568.00
	5人以上	5人以上	1	300.00
1人		1	600.00	
2人		1	350.00	
3人		4	492.25	
	5人以上	6	259.17	

(12) 結婚の希望

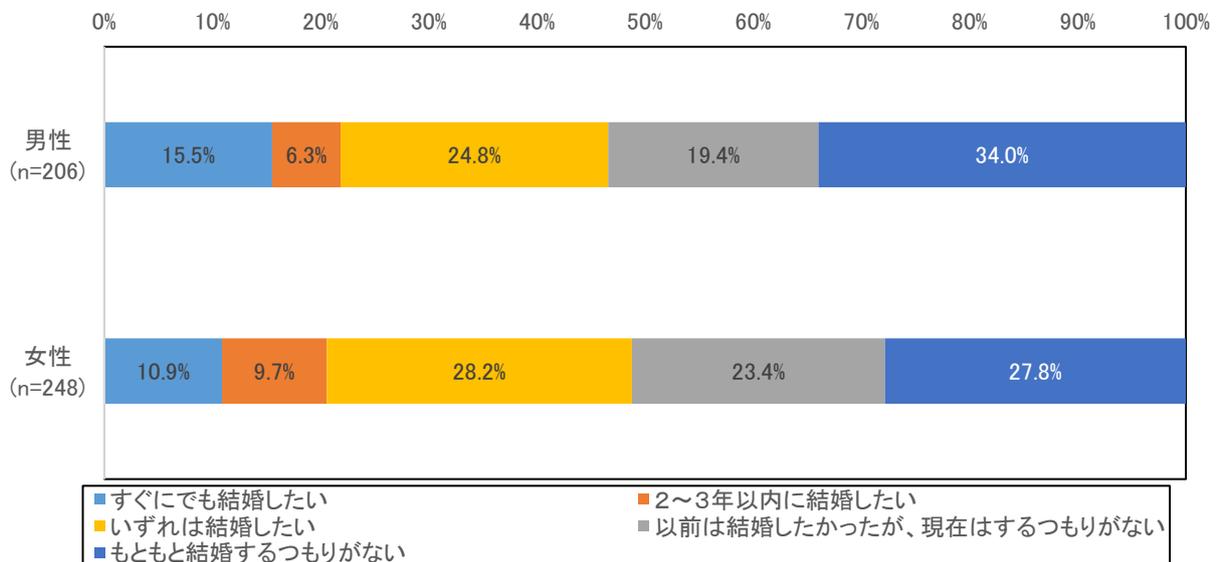
① 単純集計

未婚者に結婚の希望を尋ねたところ、最も多いのは「もともと結婚するつもりがない」(30.8%)であり、次いで「いずれは結婚したい」(26.6%)であった。



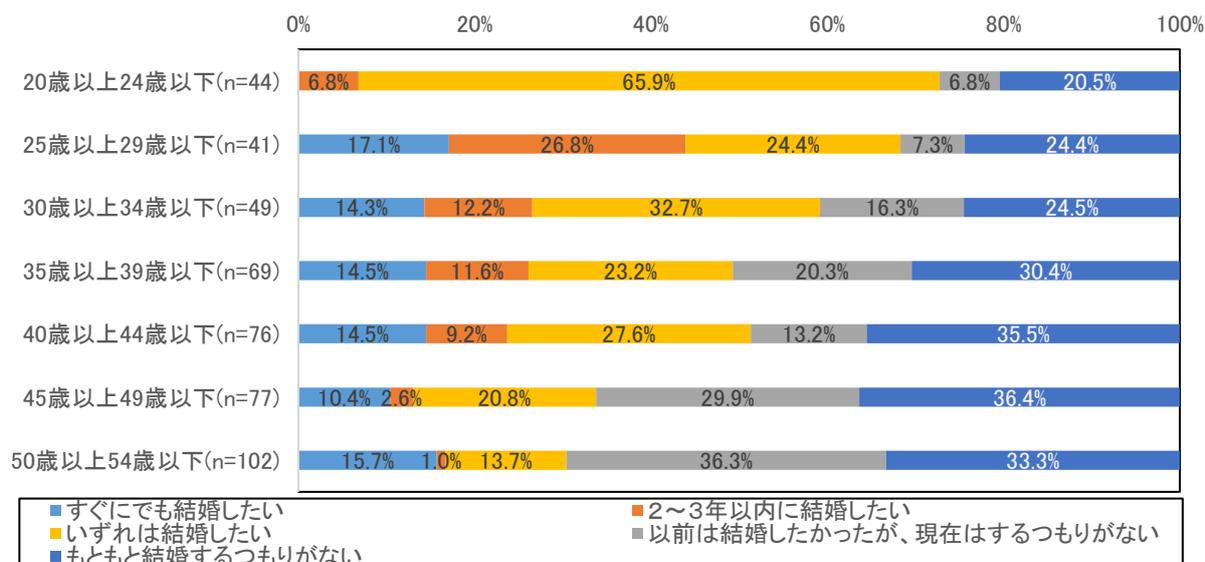
② 男女別の結婚の希望

若干ではあるが、女性の方が将来的に結婚したいと考える者が多かった。



③年齢別の結婚の希望

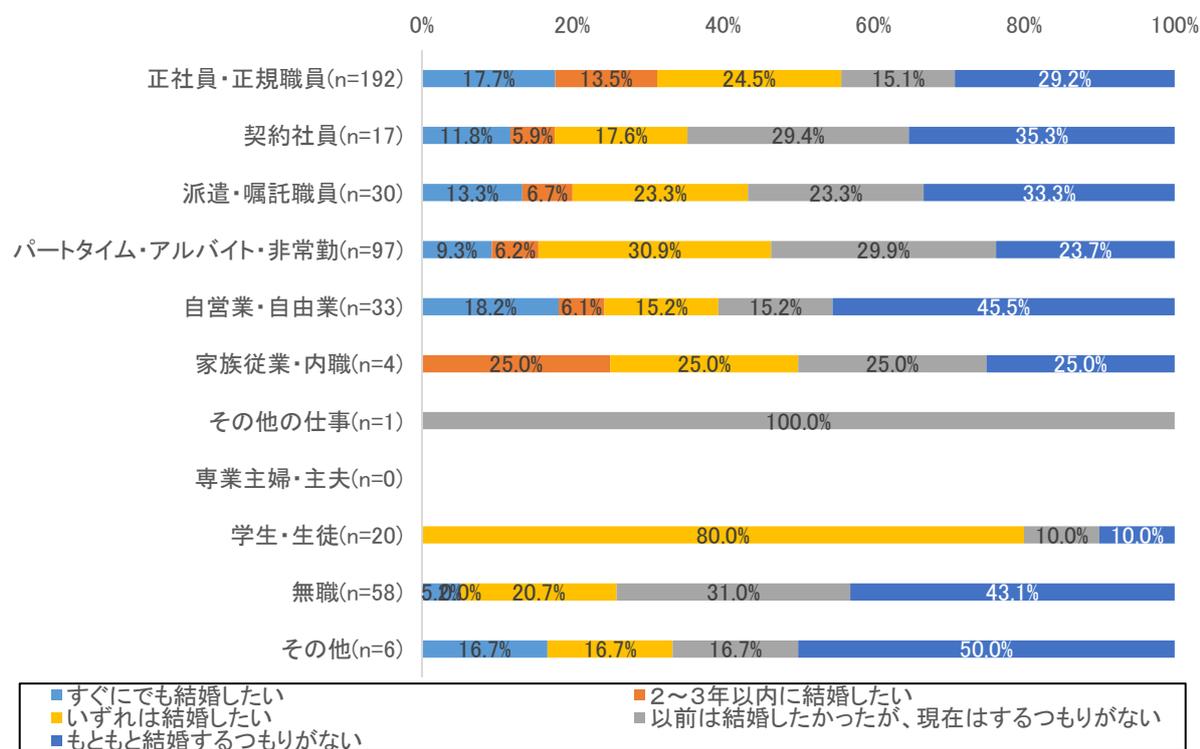
30代前半までは、将来的に結婚したいと考える者がそうではない者を上回っていた。



④就業形態別の結婚の希望

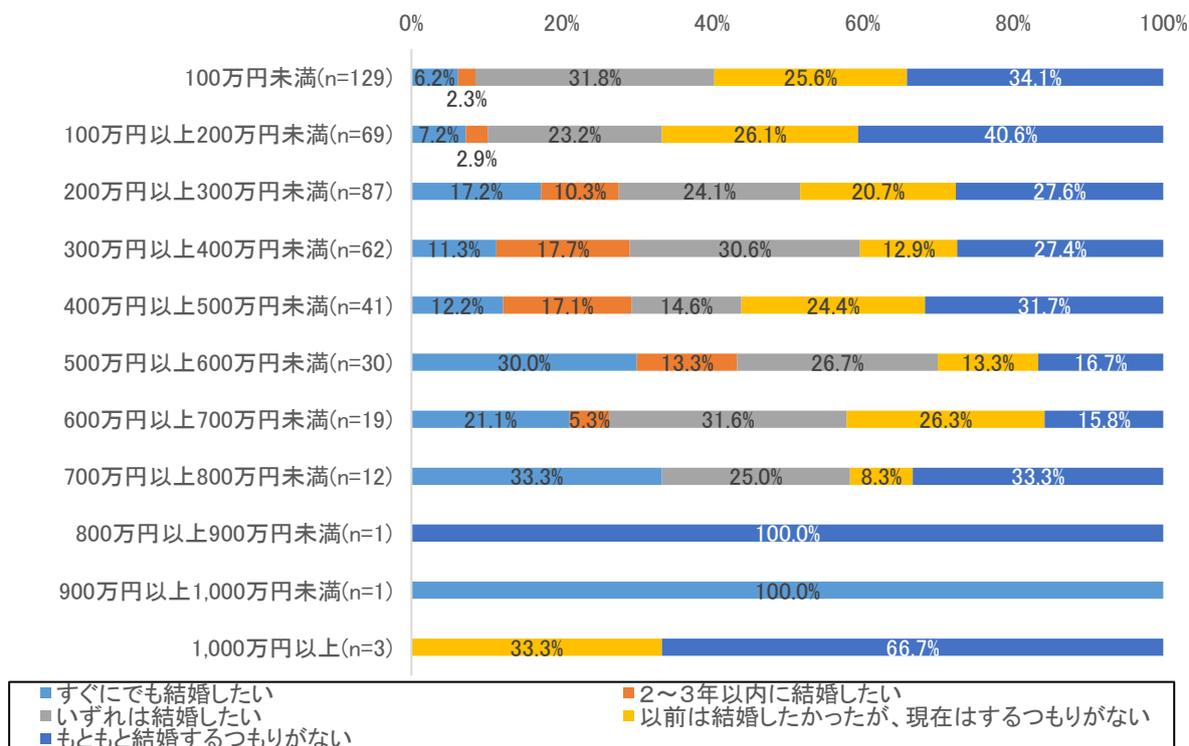
最も結婚を希望する者は学生であり、次いで正社員・正規職員であった。

自営業・自由業や無職は、結婚するつもりのない者が比較的多かった。



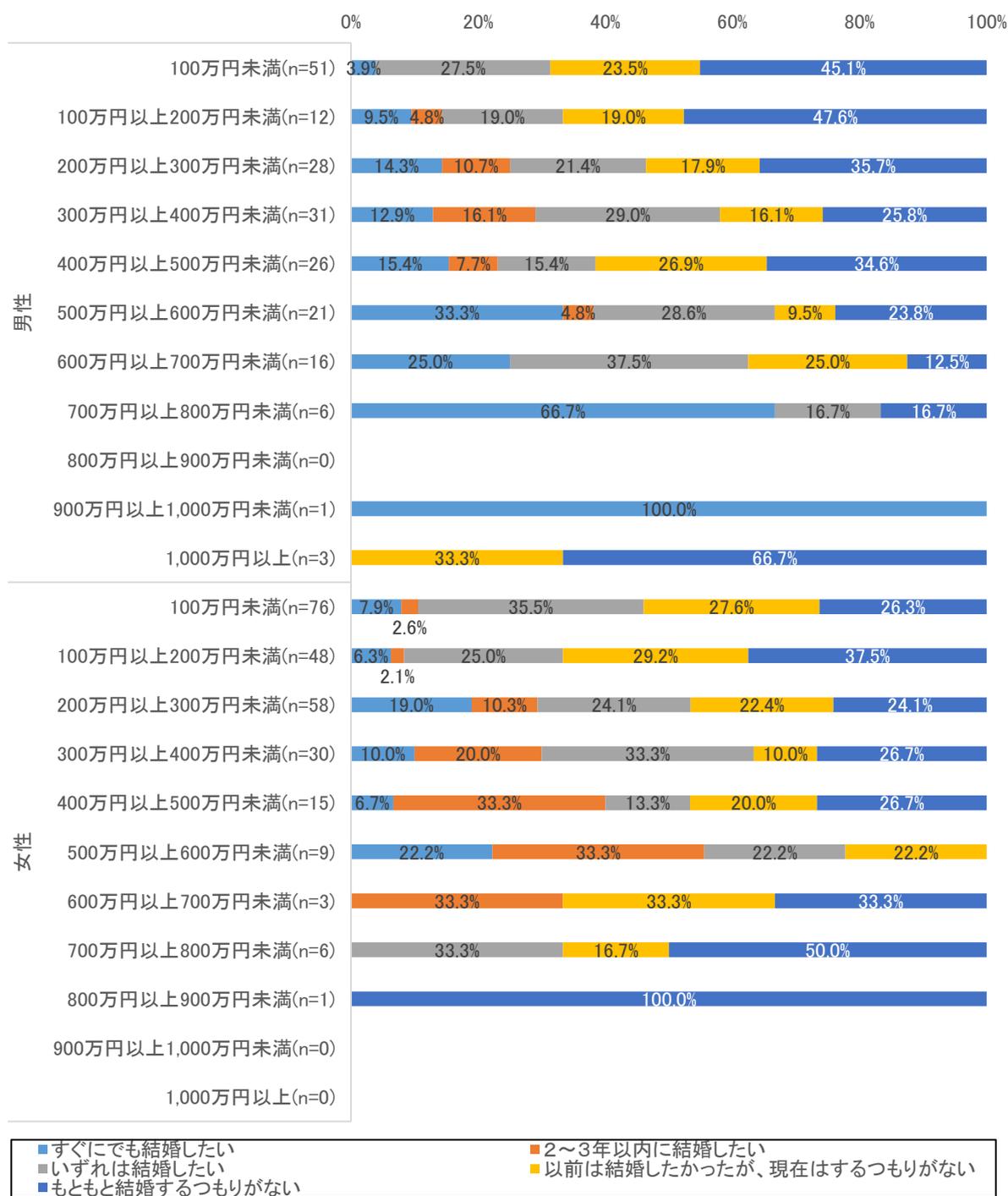
⑤年収別の結婚の希望

年収別の結婚の希望は以下の通りであった。500万円以上600万円未満の者が特に多く結婚を希望している。



⑥男女・年収別の結婚の希望

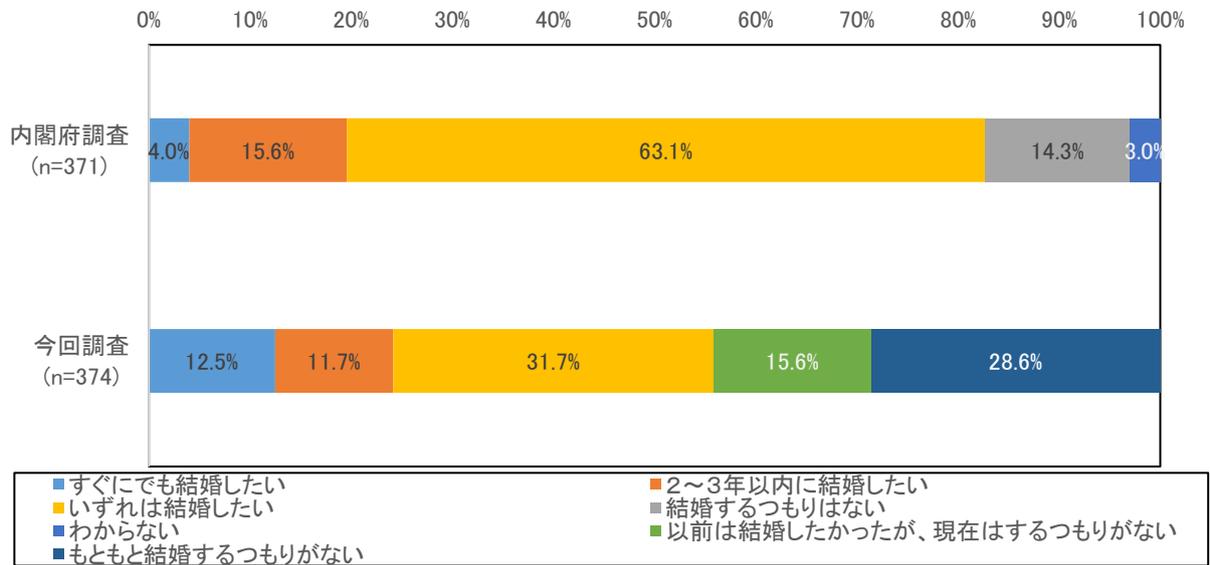
サンプルが少ないために参考値であるが、男女・年収別の結婚の希望は以下の通りであった。男性は900万円以上1,000万円未満の者が特に多く結婚を希望している。女性は500万円以上600万円未満の者が特に多く結婚を希望している。



[参考]

平成 22 年度「少子化社会に関する国際意識調査」（内閣府）における同種の設問と今回の調査を比較したところ、結婚を希望する者が今回の調査の方が 25 ポイント程度少なかった。

なお、サンプルの属性の差異をできる限りなくすよう、内閣府調査における年齢・性別の構成比に合わせて回答をウェイトバック集計(回収されたサンプル(標本)の年齢・性別等の属性を任意の構成に合わせて集計する方法)している。

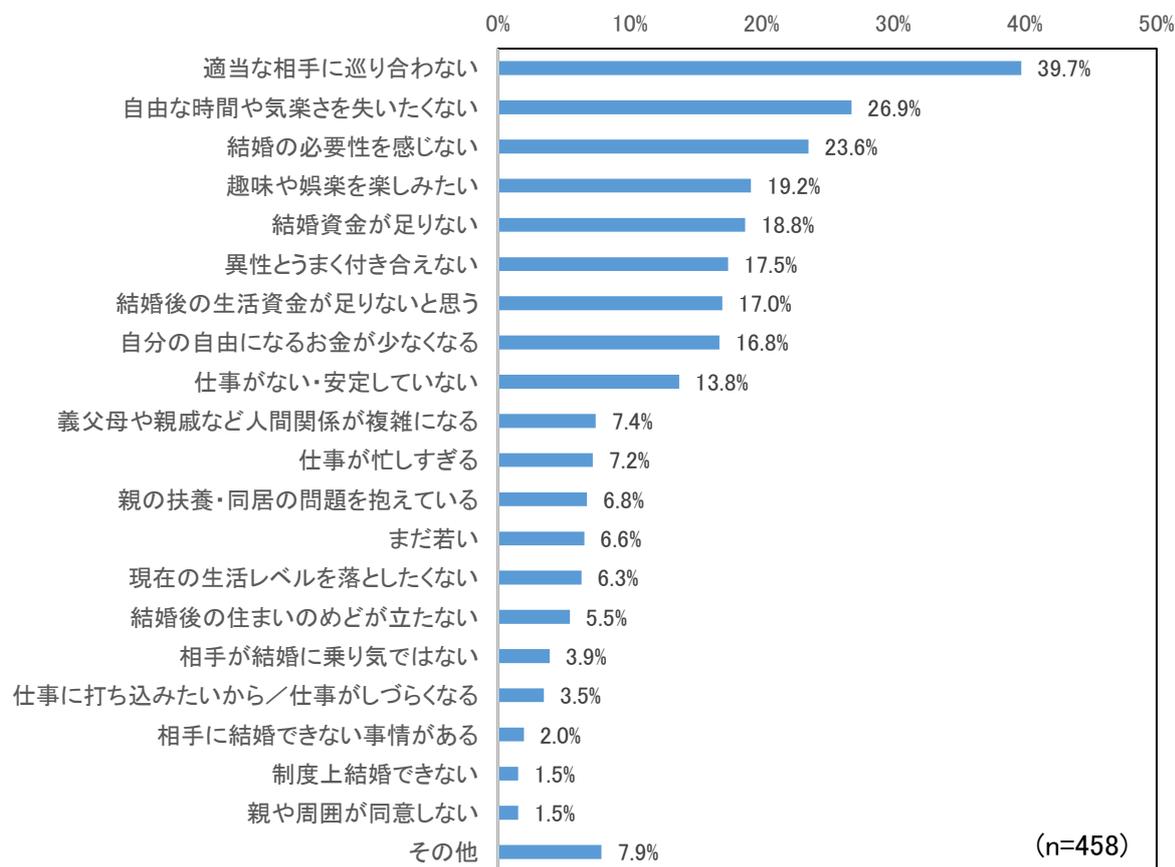


(※「結婚するつもりはない」「わからない」は内閣府調査のみの選択肢、「以前は結婚したかったが、現在はするつもりがない」「もともと結婚するつもりがない」は今回調査のみの選択肢)

(13) 結婚していない理由

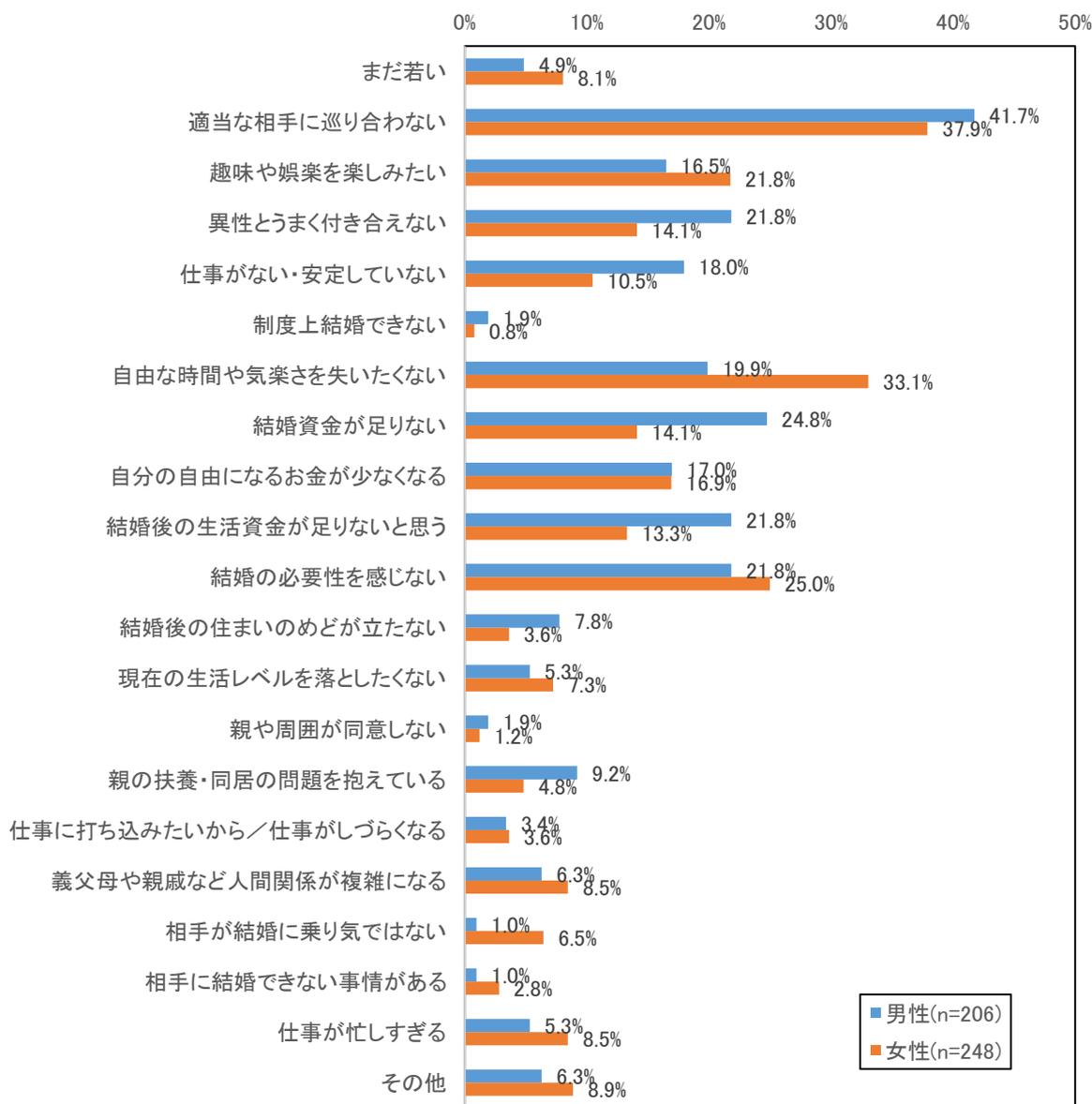
①単純集計

未婚者に結婚していない理由について尋ねたところ、最も多いのは「適当な相手に巡り合わない」(39.7%)であり、次いで「自由な時間や気楽さを失いたくない」(26.9%)であった。その他の理由としては、「幸せな夫婦が周りにいない」「自身の性格が結婚に向かない」等が挙げられた。



②男女別の結婚していない理由

男女別の結婚していない理由を集計したところ、男女共に「適切な相手に巡り合わない」が最も多く、男性については「結婚資金が足りない」が、女性については「自由な時間や気楽さを失いたくない」が二番目に多かった。



④男女別・年収別の結婚していない理由

男女別・年収別の結婚していない理由を集計したところ、下表の通りであった。特に男性を中心に、収入の低い者に「仕事がない・安定していない」や「結婚後の生活資金が足りないと思う」を挙げる者が多かった。

		該当数	まだ若い	適当な相手に巡り合わない	趣味や娯楽を楽しみたい	異性とうまく付き合えない	仕事がない安定していない	制度上結婚できない	自由な時間や気楽さを失いたくない	結婚資金が足りない	自分の自由になるお金が少なくなる	結婚後の生活資金が足りないと思う	
SQ1(性別)× Q7(年収)	男性	100万円未満	51	5	16	7	13	21	2	8	15	9	16
			100.0	9.8	31.4	13.7	25.5	41.2	3.9	15.7	29.4	17.6	31.4
		100万円以上200万円未満	21	0	6	4	6	9	0	5	7	1	5
			100.0	0.0	28.6	19.0	28.6	42.9	0.0	23.8	33.3	4.8	23.8
		200万円以上300万円未満	28	2	13	3	5	3	0	3	11	5	8
			100.0	7.1	46.4	10.7	17.9	10.7	0.0	10.7	39.3	17.9	28.6
		300万円以上400万円未満	31	2	12	8	2	1	0	8	8	6	7
			100.0	6.5	38.7	25.8	6.5	3.2	0.0	25.8	25.8	19.4	22.6
		400万円以上500万円未満	26	0	10	3	7	2	0	6	6	6	6
			100.0	0.0	38.5	11.5	26.9	7.7	0.0	23.1	23.1	23.1	23.1
		500万円以上600万円未満	21	1	12	5	5	0	0	4	2	5	2
			100.0	4.8	57.1	23.8	23.8	0.0	0.0	19.0	9.5	23.8	9.5
	600万円以上700万円未満	16	0	10	2	4	0	1	2	2	2	0	
		100.0	0.0	62.5	12.5	25.0	0.0	6.3	12.5	12.5	12.5	0.0	
	700万円以上800万円未満	6	0	4	1	3	0	0	3	0	1	0	
		100.0	0.0	66.7	16.7	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	16.7	0.0	
	800万円以上900万円未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	900万円以上1,000万円未満	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
		100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	1,000万円以上	3	0	2	1	0	0	1	2	0	0	0	
		100.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	
	女性	100万円未満	76	17	24	9	8	15	0	12	10	7	10
			100.0	22.4	31.6	11.8	10.5	19.7	0.0	15.8	13.2	9.2	13.2
100万円以上200万円未満		48	0	19	16	9	8	2	22	10	14	10	
		100.0	0.0	39.6	33.3	18.8	16.7	4.2	45.8	20.8	29.2	20.8	
200万円以上300万円未満		58	1	22	14	9	1	0	22	10	10	7	
		100.0	1.7	37.9	24.1	15.5	1.7	0.0	37.9	17.2	17.2	12.1	
300万円以上400万円未満		30	1	10	8	7	2	0	14	4	9	5	
		100.0	3.3	33.3	26.7	23.3	6.7	0.0	46.7	13.3	30.0	16.7	
400万円以上500万円未満		15	1	10	0	2	0	0	4	1	0	1	
		100.0	6.7	66.7	0.0	13.3	0.0	0.0	26.7	6.7	0.0	6.7	
500万円以上600万円未満		9	0	3	3	0	0	0	3	0	0	0	
		100.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	
600万円以上700万円未満	3	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0		
	100.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0		
700万円以上800万円未満	6	0	4	2	0	0	0	3	0	2	0		
	100.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	33.3	0.0		
800万円以上900万円未満	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0		
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0		
900万円以上1,000万円未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
1,000万円以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

		結婚の必要性を感じない	結婚後の住まいのめどが立たない	現在の生活レベルを落としたくない	親や周囲が同意しない	親の扶養・同居の問題を抱えている	仕事に打ち込みたいから/仕事がつらくなる	義父母や親戚など人間関係が複雑になる	相手が結婚に乗り気ではない	相手に結婚できない事情がある	仕事が忙しすぎる	その他		
SQ1(性別)× Q7(年収)	男性	100万円未満	13 25.5	6 11.8	2 3.9	1 2.0	3 5.9	3 5.9	5 9.8	1 2.0	0 0.0	1 2.0	6 11.8	
		100万円以上200万円未満	4 19.0	3 14.3	0 0.0	0 0.0	2 9.5	0 0.0	3 14.3	0 0.0	2 9.5	0 0.0	0 0.0	
		200万円以上300万円未満	5 17.9	2 7.1	2 7.1	1 3.6	2 7.1	1 3.6	2 7.1	0 0.0	0 0.0	2 7.1	2 7.1	
		300万円以上400万円未満	7 22.6	1 3.2	3 9.7	1 3.2	2 6.5	2 6.5	2 3.2	1 0.0	0 0.0	0 3.2	1 6.5	
		400万円以上500万円未満	6 23.1	4 15.4	2 7.7	1 3.8	3 11.5	0 0.0	2 7.7	0 0.0	0 0.0	3 11.5	3 11.5	
		500万円以上600万円未満	4 19.0	0 0.0	1 4.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 4.8	0 0.0	
		600万円以上700万円未満	2 12.5	0 0.0	1 6.3	0 0.0	6 37.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 6.3	1 0.0	
		700万円以上800万円未満	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	1 16.7	0 0.0	
		800万円以上900万円未満	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
		900万円以上1,000万円未満	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
		1,000万円以上	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	
		女性	100万円未満	11 14.5	1 1.3	3 3.9	1 1.3	5 6.6	3 3.9	6 7.9	4 5.3	2 2.6	6 7.9	11 14.5
			100万円以上200万円未満	17 35.4	2 4.2	4 8.3	2 4.2	2 4.2	2 4.2	8 16.7	2 4.2	0 0.0	3 6.3	5 10.4
			200万円以上300万円未満	12 20.7	1 1.7	4 6.9	0 0.0	4 6.9	2 3.4	3 5.2	6 10.3	3 5.2	4 6.9	3 5.2
	300万円以上400万円未満		8 26.7	2 6.7	5 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 10.0	1 3.3	1 3.3	3 10.0	2 6.7	
	400万円以上500万円未満		6 40.0	1 6.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 6.7	2 13.3	1 6.7	2 13.3	0 0.0	
	500万円以上600万円未満		1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 11.1	1 11.1	0 0.0	1 11.1	0 0.0	3 33.3	1 11.1	
	600万円以上700万円未満		1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	700万円以上800万円未満		5 83.3	1 16.7	1 16.7	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	800万円以上900万円未満		1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	900万円以上1,000万円未満		0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	1,000万円以上		0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	

⑤男女別・結婚の意向別の結婚していない理由

結婚の意向別の結婚していない理由を集計したところ、下表の通りであった。「すぐにでも結婚したい」「2～3年以内に結婚したい」「いずれは結婚したい」を選択した者については、男女共に「適当な相手に巡り合わない」が最も多かった。「以前は結婚したかったが、現在はするつもりがない」者については、男性は「自由な時間や気楽さを失いたくない」が、女性は「適当な相手に巡り合わない」が最も多かった。「もともと結婚するつもりがない」者については、男女共に「結婚の必要性を感じない」が最も多かった。

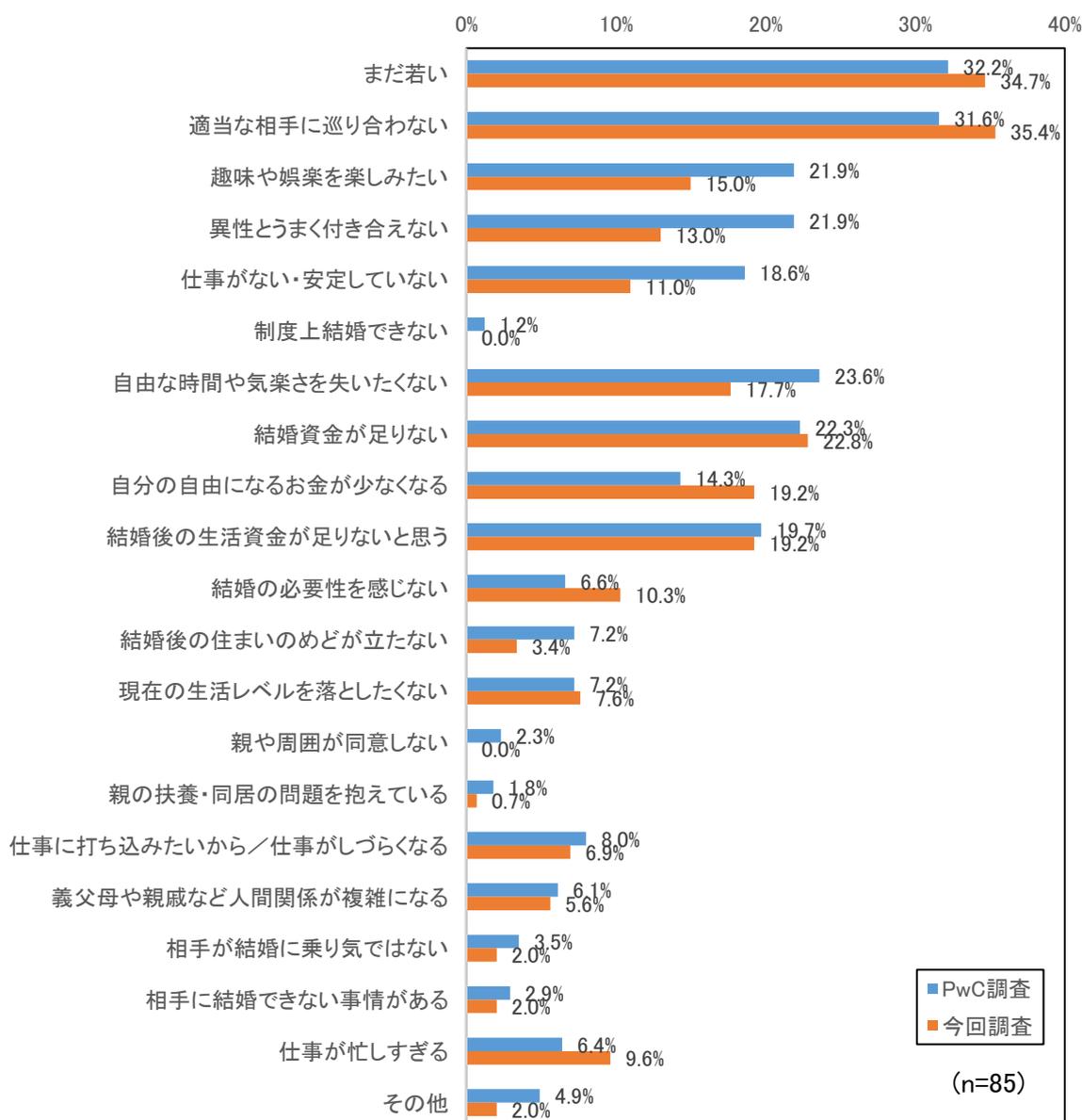
		該当数	まだ若い	適当な相手に巡り合わない	趣味や娯楽を楽しみたい	異性とうまく付き合えない	仕事がない・安定していない	制度上結婚できない	自由な時間や気楽さを失いたくない	結婚資金が足りない	自分の自由になるお金が少なくなる	結婚後の生活資金が足りないと思う	
SC1(性別)×Q9(結婚の希望)	男性	すぐにでも結婚したい	32 100.0	1 3.1	22 68.8	3 9.4	10 31.3	3 9.4	2 6.3	2 6.3	7 21.9	4 12.5	8 25.0
		2～3年以内に結婚したい	13 100.0	1 7.7	7 53.8	2 15.4	2 15.4	1 7.7	0 0.0	1 7.7	4 30.8	2 15.4	4 30.8
		いずれは結婚したい	51 100.0	2 3.9	35 68.6	8 15.7	12 23.5	11 21.6	0 0.0	7 13.7	16 31.4	6 11.8	11 21.6
		以前は結婚したかったが、現在はするつもりがない	40 100.0	2 5.0	9 22.5	7 17.5	9 22.5	11 27.5	0 0.0	13 32.5	10 25.0	10 25.0	11 27.5
		もともと結婚するつもりがない	70 100.0	4 5.7	13 18.6	14 20.0	12 17.1	11 15.7	2 2.9	18 25.7	14 20.0	13 18.6	11 15.7
		もともと結婚するつもりがない	27 100.0	1 3.7	12 44.4	1 3.7	5 18.5	3 11.1	0 0.0	5 18.5	7 25.9	2 7.4	5 18.5
	女性	すぐにでも結婚したい	24 100.0	1 4.2	10 41.7	4 16.7	2 8.3	2 8.3	0 0.0	5 20.8	6 25.0	4 16.7	6 25.0
		2～3年以内に結婚したい	70 100.0	15 21.4	38 54.3	21 30.0	10 14.3	10 14.3	0 0.0	20 28.6	13 18.6	9 12.9	11 15.7
		いずれは結婚したい	58 100.0	1 1.7	23 39.7	11 19.0	9 15.5	10 17.2	1 1.7	21 36.2	6 10.3	8 13.8	7 12.1
		以前は結婚したかったが、現在はするつもりがない	69 100.0	2 2.9	11 15.9	17 24.6	9 13.0	1 1.4	1 1.4	31 44.9	3 4.3	19 27.5	4 5.8
		もともと結婚するつもりがない	0 0.0	2 6.3	1 3.1	0 0.0	4 12.5	0 0.0	2 6.3	0 0.0	1 3.1	1 3.1	0 0.0
		もともと結婚するつもりがない	0 0.0	2 15.4	0 0.0	1 7.7	0 0.0	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 7.7	1 7.7
SC1(性別)×Q9(結婚の希望)	男性	すぐにでも結婚したい	4 7.8	2 3.9	3 5.9	2 3.9	2 3.9	2 3.9	3 5.9	0 0.0	0 0.0	4 7.8	2 3.9
		2～3年以内に結婚したい	7 17.5	3 7.5	5 12.5	1 2.5	11 27.5	2 5.0	6 15.0	0 0.0	0 0.0	2 5.0	3 7.5
		いずれは結婚したい	34 48.6	7 10.0	2 2.9	0 0.0	2 2.9	2 2.9	2 2.9	2 2.9	1 1.4	3 4.3	7 10.0
		以前は結婚したかったが、現在はするつもりがない	0 0.0	1 3.7	1 3.7	0 0.0	2 7.4	0 0.0	0 0.0	4 14.8	1 3.7	2 7.4	3 11.1
		もともと結婚するつもりがない	2 8.3	1 4.2	2 8.3	0 0.0	3 12.5	3 12.5	1 4.2	3 12.5	1 4.2	7 29.2	0 0.0
		もともと結婚するつもりがない	6 8.6	3 4.3	7 10.0	0 0.0	1 1.4	5 7.1	3 4.3	3 4.3	1 1.4	6 8.6	2 2.9
	女性	すぐにでも結婚したい	20 34.5	3 5.2	3 5.2	3 5.2	6 10.3	0 0.0	8 13.8	5 8.6	3 5.2	1 1.7	6 10.3
		2～3年以内に結婚したい	34 49.3	1 1.4	5 7.2	0 0.0	0 0.0	1 1.4	9 13.0	1 1.4	5 7.2	1 1.4	11 15.9
		いずれは結婚したい	0 0.0	1 3.7	1 3.7	0 0.0	2 7.4	0 0.0	0 0.0	4 14.8	1 3.7	2 7.4	3 11.1
		以前は結婚したかったが、現在はするつもりがない	2 8.3	1 4.2	2 8.3	0 0.0	3 12.5	3 12.5	1 4.2	3 12.5	1 4.2	7 29.2	0 0.0
		もともと結婚するつもりがない	6 8.6	3 4.3	7 10.0	0 0.0	1 1.4	5 7.1	3 4.3	3 4.3	1 1.4	6 8.6	2 2.9
		もともと結婚するつもりがない	34 49.3	1 1.4	5 7.2	0 0.0	0 0.0	1 1.4	9 13.0	1 1.4	5 7.2	1 1.4	11 15.9

[参考]

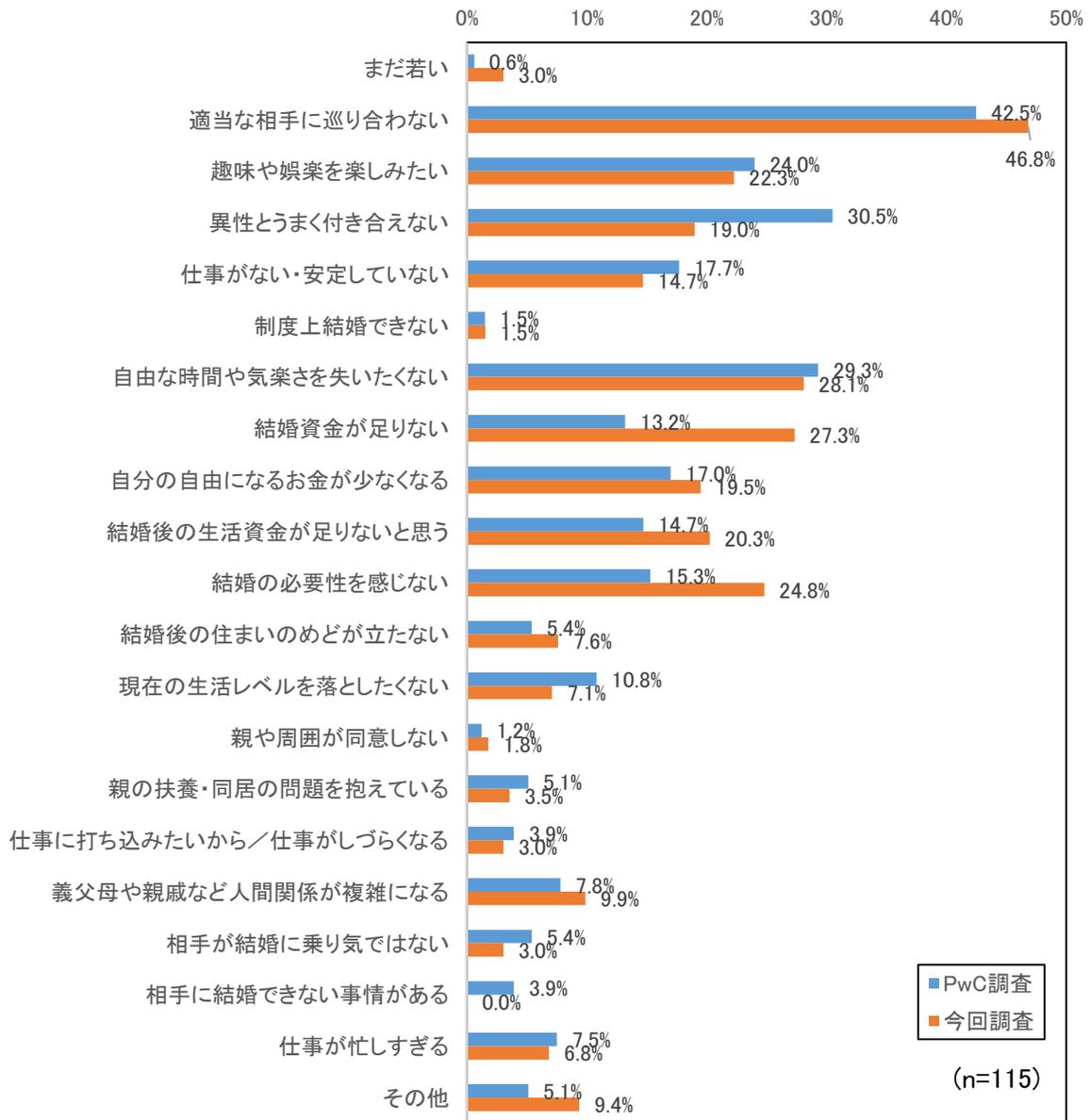
調査時点等が異なるため単純比較はできないが、「結婚観・家族観に関するアンケート」(PwC Japan)における同種の設問と比較した結果、20代については「趣味や娯楽を楽しみたい」「異性とうまく付き合えない」「仕事がない・安定していない」「自由な時間や気楽さを失いたくない」は5ポイント以上PwC調査の方が多かった。30代については「異性とうまく付き合えない」が5ポイント以上PwC調査の方が多く、「結婚資金が足りない」「結婚後の生活資金が足りないと思う」が5ポイント以上今回調査の方が多かった。40代については「結婚の必要性を感じない」が5ポイント以上今回調査の方が多かった。

なお、サンプルの属性の差異をできる限りなくすよう、各年代について、PwC Japanにおける性別の構成比に合わせて回答をウェイトバック集計している。

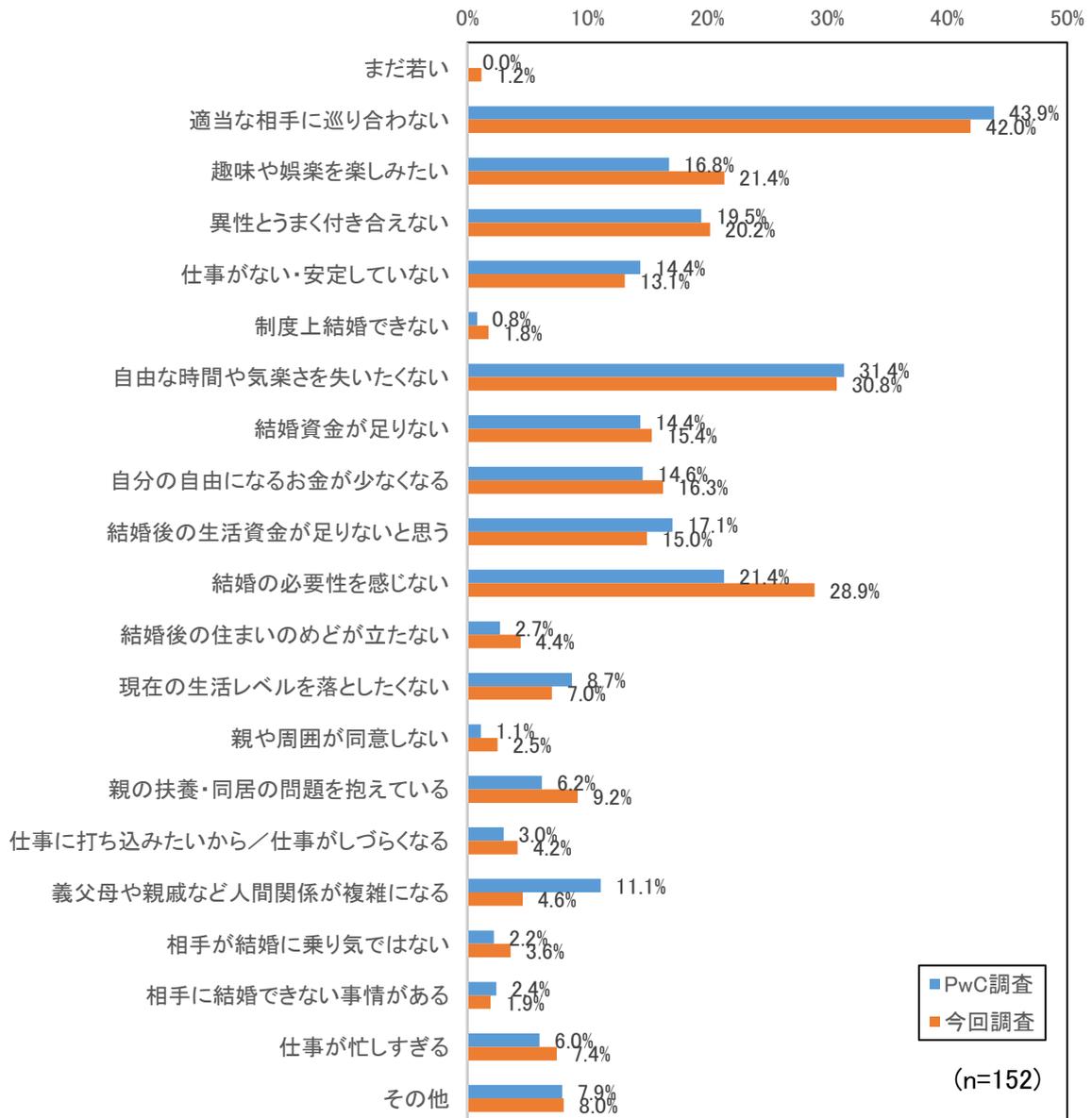
【20代】



【30代】



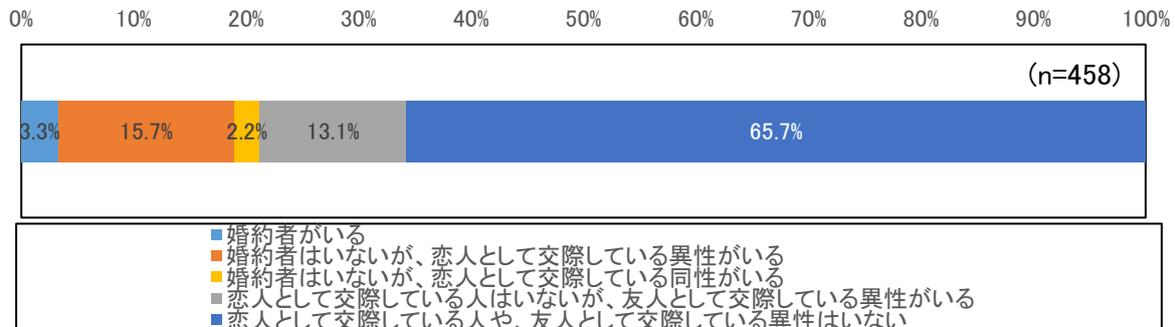
【40代】



(14) 交際相手の有無

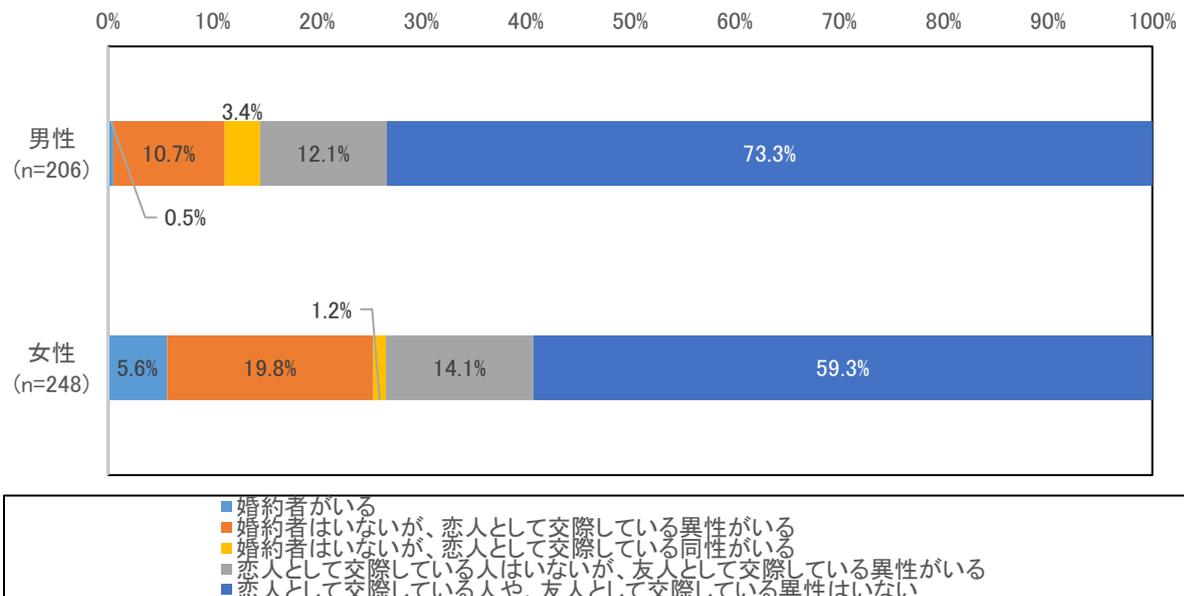
① 単純集計

未婚者に交際相手の有無を尋ねたところ、最も多いのは「恋人として交際している人や、友人として交際している異性はいない」(65.7%)であり、次いで「婚約者はいないが、恋人として交際している異性がいる」(15.7%)であった。



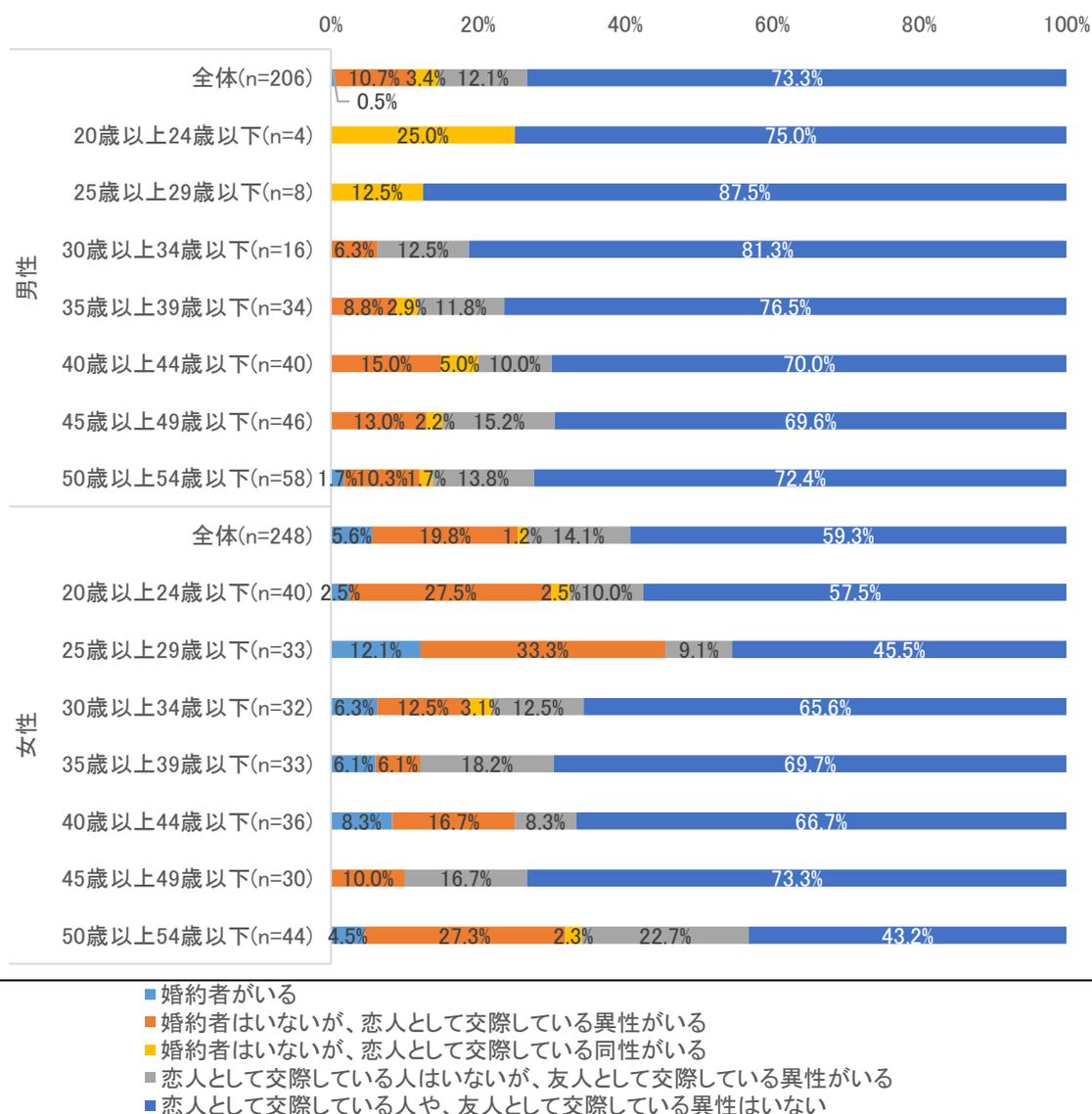
② 男女別の交際相手の有無

男女別に交際相手の有無を集計したところ、女性の方が婚約者がある者や、恋人・友人として交際している異性がいる者が多く、男性の方が恋人や友人として交際している異性が少なかった。



③男女別・年齢別の交際相手の有無

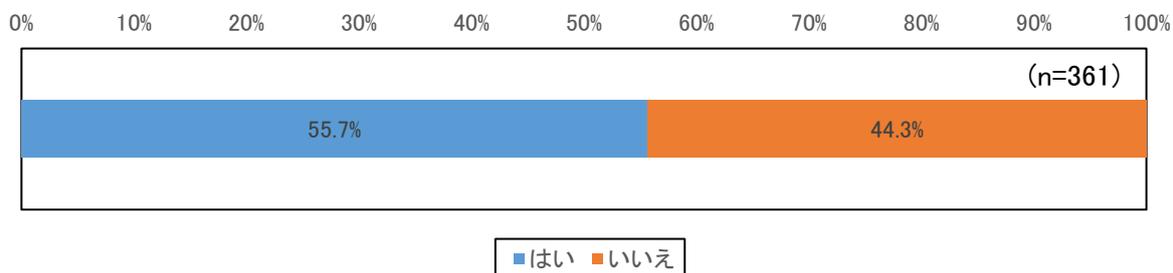
概ね、男性については年齢が上がるほど異性と交際している者が増え、女性については若年層の方が異性と交際している者が多い傾向が見られた。



(15) 恋人の希望

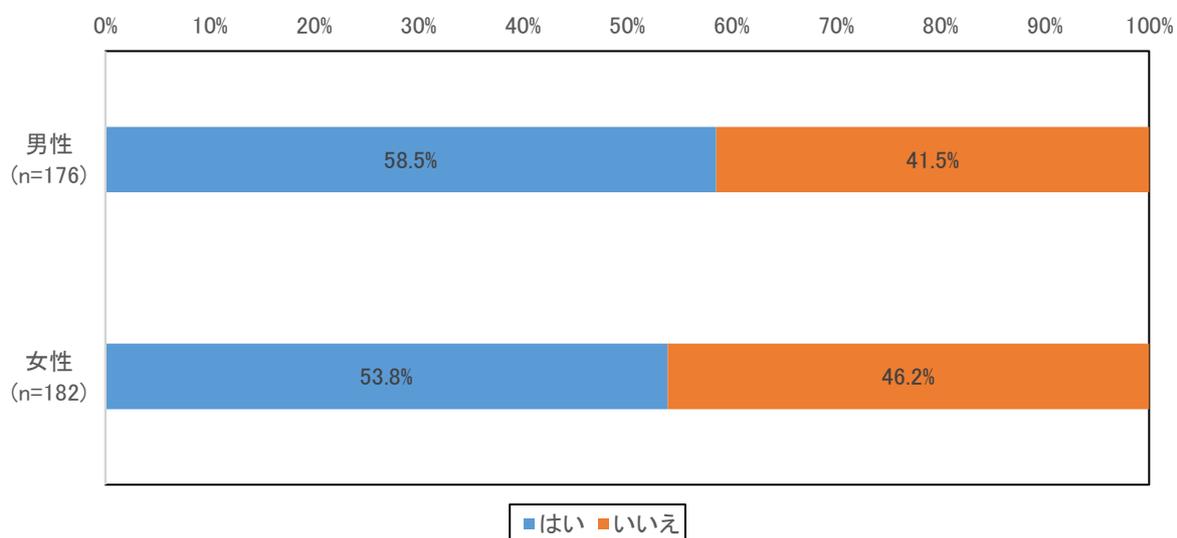
①単純集計

未婚者かつ異性の恋人がいない者に異性の恋人がほしいかを尋ねたところ、「はい」が 55.7%、「いいえ」が 44.3%であった。



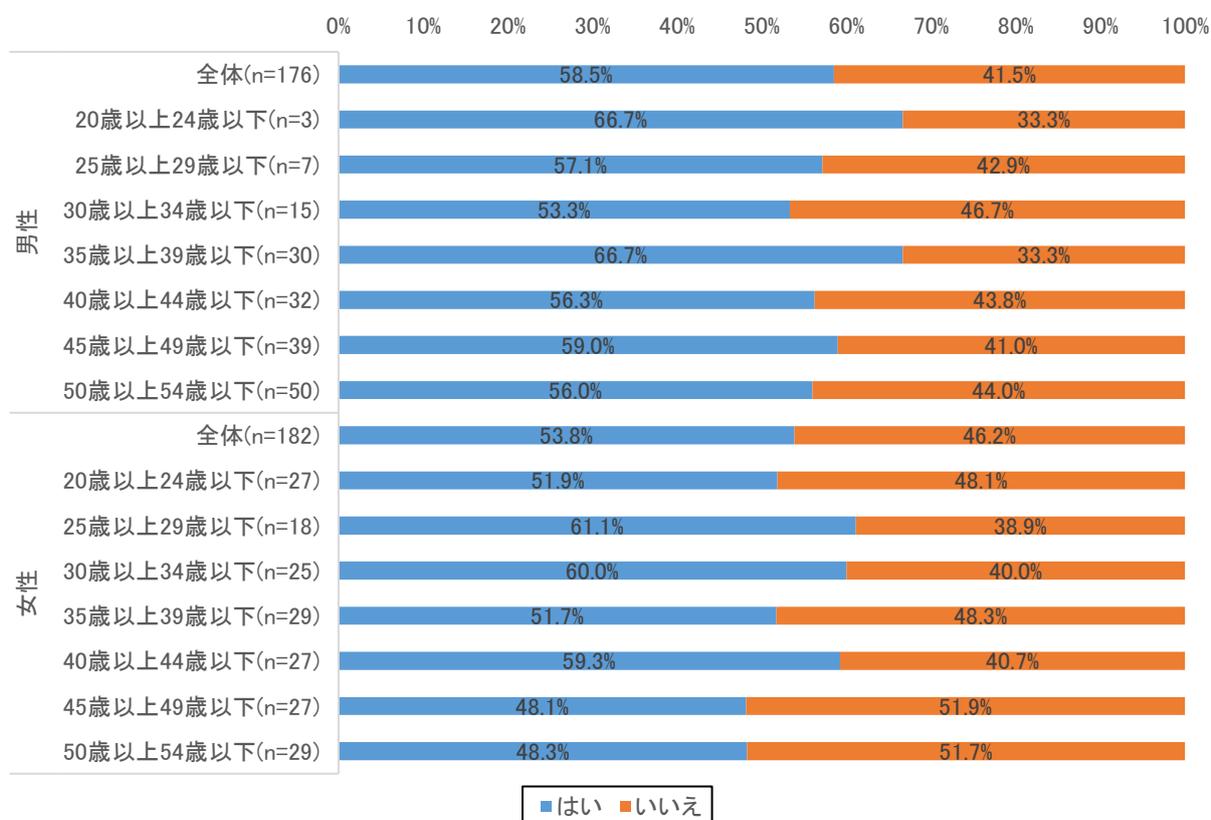
②男女別の恋人の希望

男女別に異性の恋人の希望を集計すると、男性の方が恋人を希望する者が多かった。



③男女別・年齢別の恋人の希望

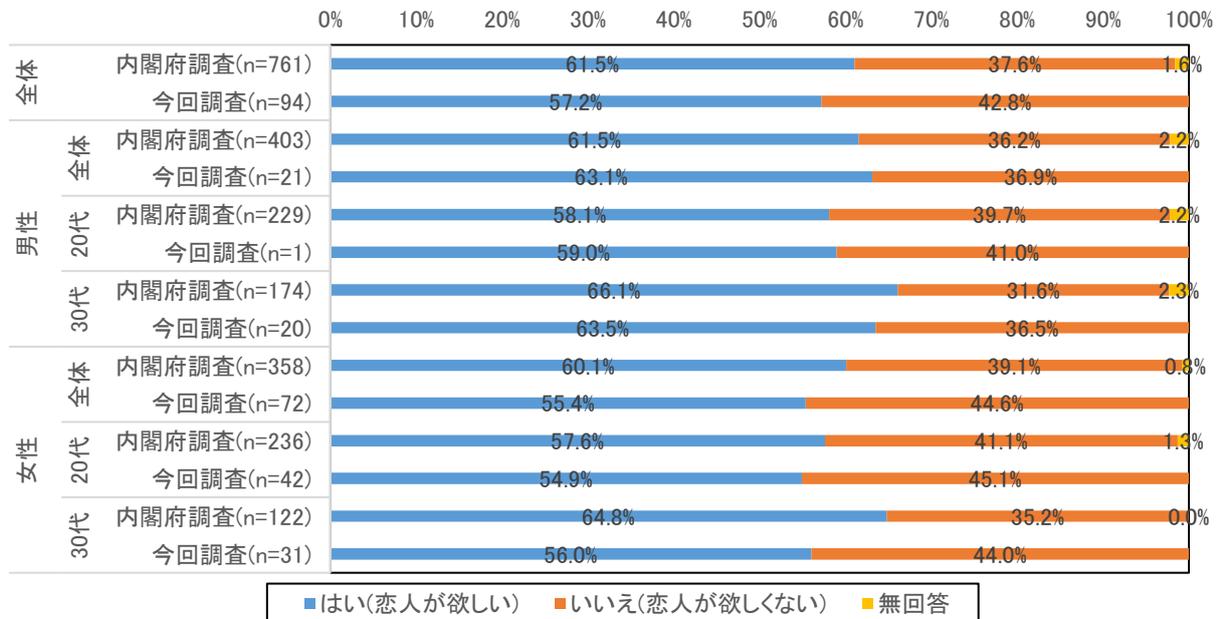
男女別・年齢別の恋人の希望は以下の通りであった。サンプルが少ないため参考値だが、男性の場合は20代前半や30代後半が恋人が欲しいと考える者が他の年代よりも多く、女性の場合は20代後半～30代前半の者が比較的恋人が欲しいと考える者が多かった。



[参考]

調査時点等が異なるため単純比較はできないが、平成 26 年度「結婚・家族形成に関する意識調査」(内閣府)における同種の設問と今回の調査を比較した結果、全体として今回調査の方が恋人が欲しい者が少ない結果となった。

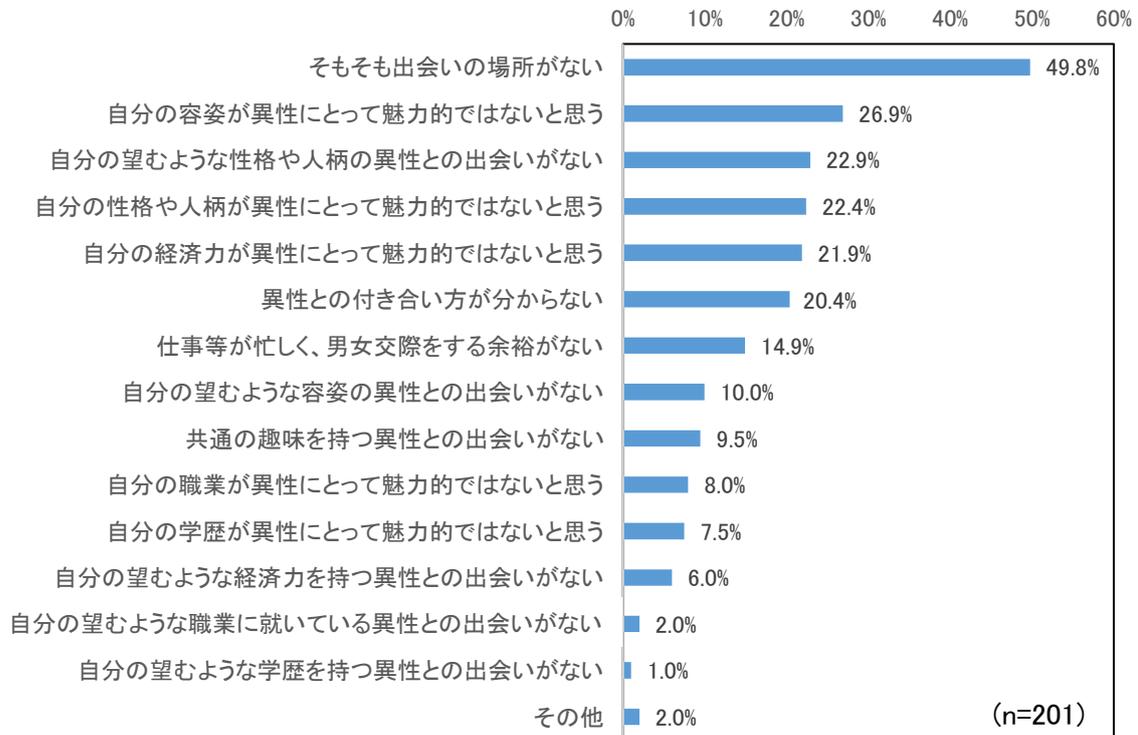
なお、サンプルの属性の差異をできる限りなくすよう、内閣府調査における性別の構成比に合わせて、また、全体の集計においては年齢の構成比も合わせて、回答をウェイトバック集計している。



(16) 異性の恋人がほしいのに実際にはいない理由

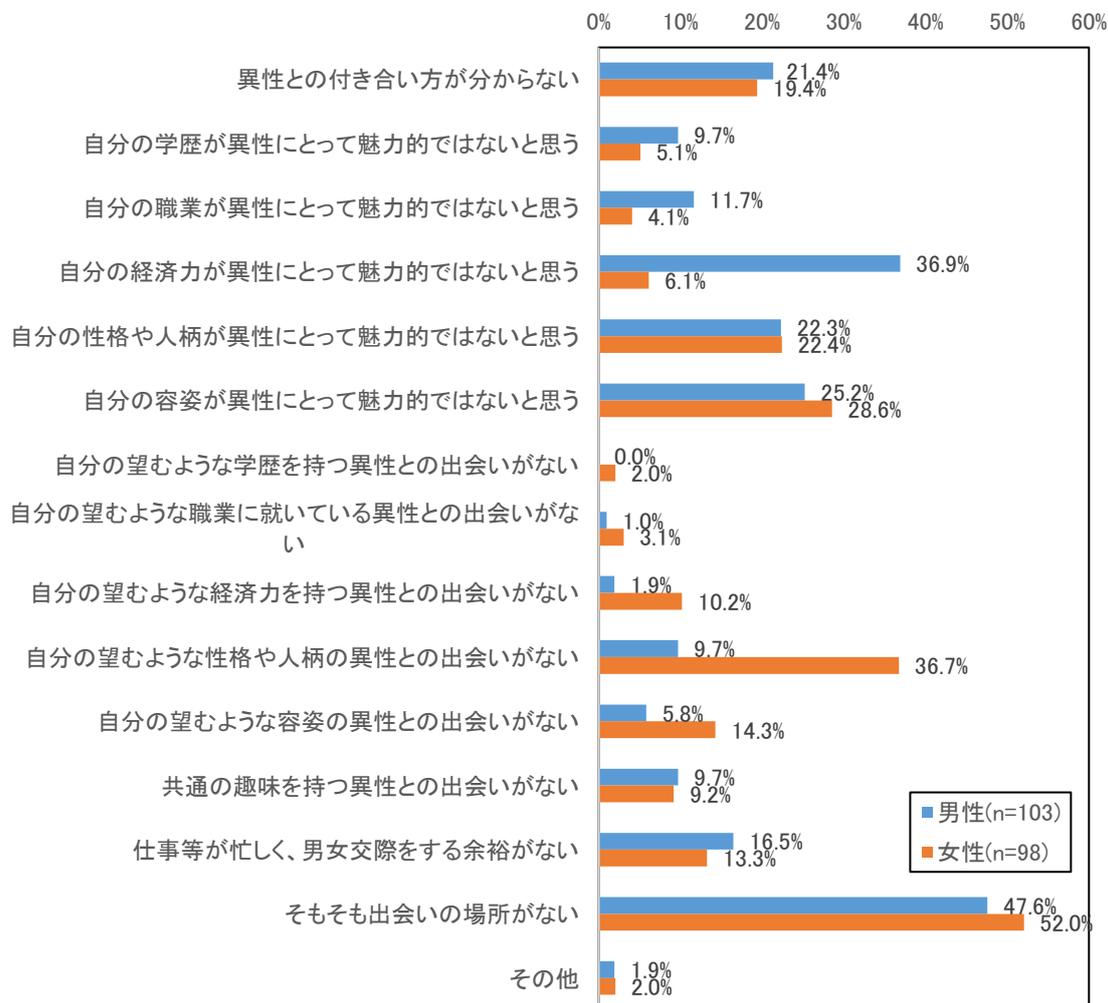
① 単純集計

異性の恋人がほしいのに実際にはいない未婚者に理由を尋ねたところ、「そもそも出会いの場所がない」が 49.8%と最も多く、次いで「自分の容姿が異性にとって魅力的ではないと思う」が 26.9%と多かった。その他の内容としては、「一人が楽だから」「子供がいるため躊躇してしまう」「現在の家庭状況を、相手に理解してもらいながら交際する事が現実的ではない」等が挙げられた。



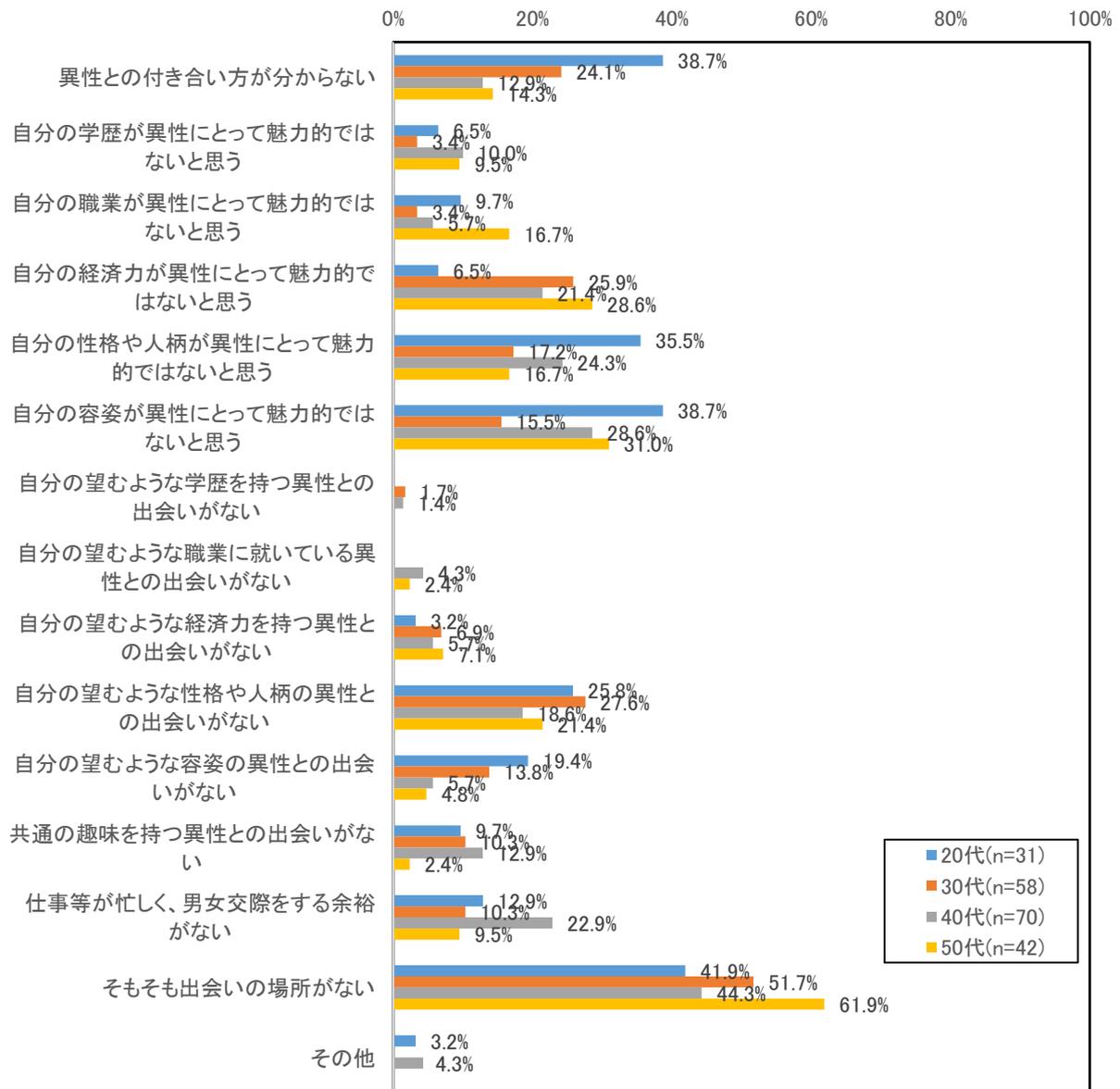
②男女別の理由

異性の恋人が欲しいのに実際にはいない理由を男女別に集計したところ、男女共に「そもそも出会いの場がない」が最も多く、男性の場合は「自分の経済力が異性にとって魅力的ではないと思う」が、女性の場合は「自分の望むような性格や人柄の異性との出会いがない」が二番目に多かった。



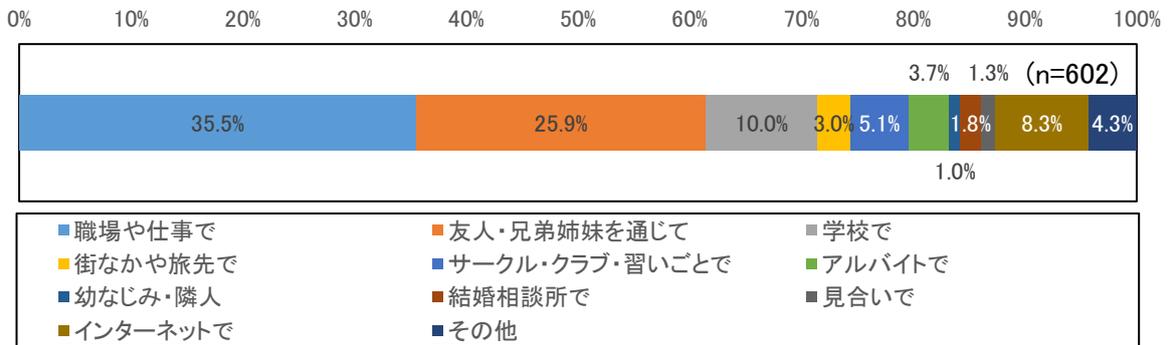
③年齢別の理由

すべての年代で「そもそも出会いの場所がない」が最も多かった。



(17) 配偶者と知り合ったきっかけ

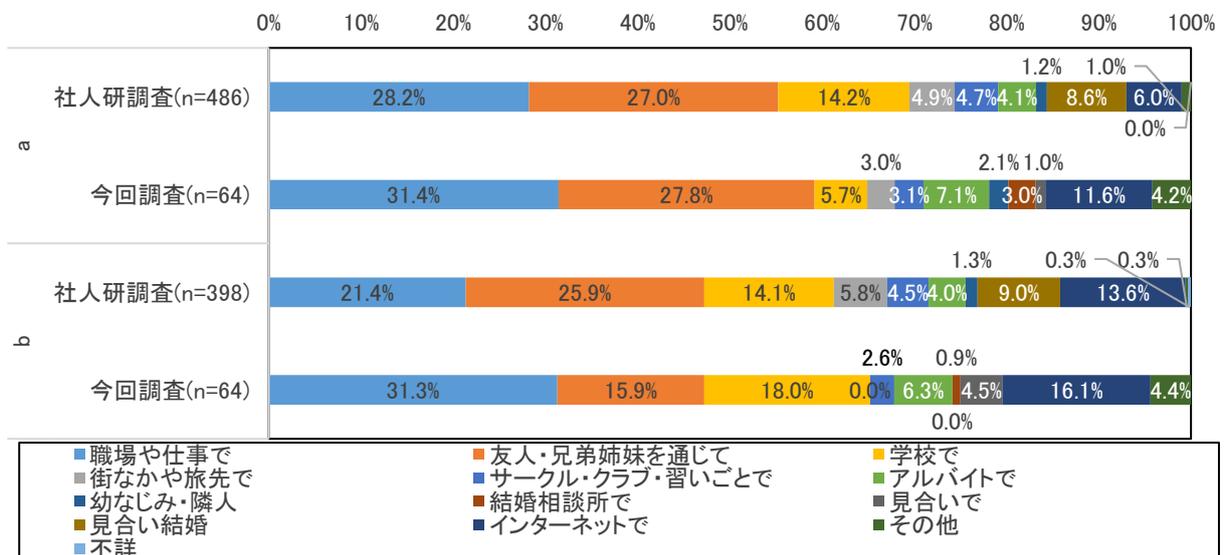
既婚者に配偶者と知り合ったきっかけを尋ねたところ、最も多いのは「職場や学校で」(35.5%)であり、次いで「友人・兄弟姉妹を通じて」(25.9%)が多かった。



[参考]

調査時点等が異なるため単純比較はできないが、令和3年6月に実施された「出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）」(国立社会保障・人口問題研究所)における同種の設問と今回の調査を比較した結果、「職場や仕事で」や「インターネットで」が今回調査の方が多い結果となった。

なお、社人研調査においては、下記 a の対象者が平成27年7月～平成30年6月(結婚後4～6年)、下記 b の対象者が平成31年7月～令和3年6月(結婚後1～3年)に結婚した者である。今回の調査では、結婚時期を回答者に尋ねていないため、30代後半の既婚者を a と、30代前半の既婚者を b と比較した。男女比についてはウェイトバックを行った。

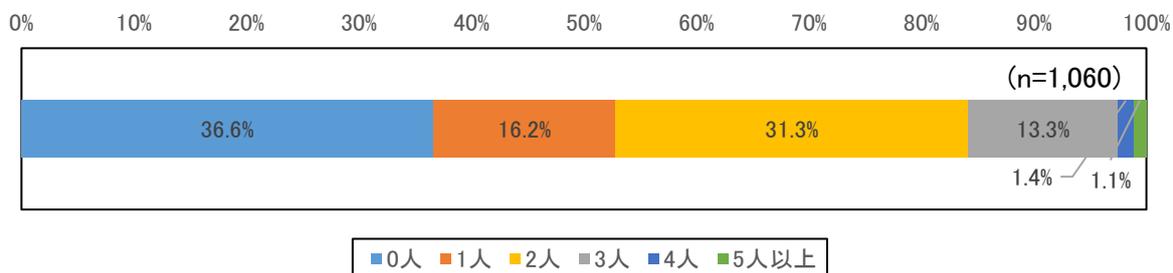


(※ 「結婚相談所で」「見合いで」は今回調査、「見合い結婚」「不詳」は社人研調査のみの選択肢)

(18) 予定子ども数・理想的な子ども数

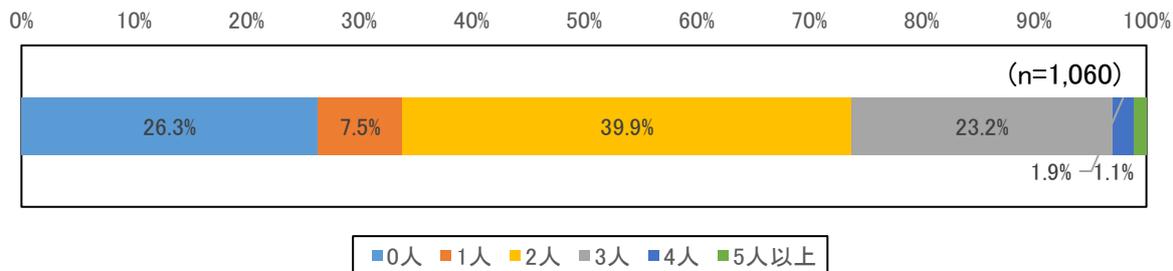
① 予定子ども数

予定子ども数の平均値は 1.30 人であり、0 人が 36.6% と最も多く、次いで 2 人が 31.3% と多かった。



② 理想的な子ども数

理想的な子ども数の平均値は 1.71 人であり、2 人が 39.9% と最も多く、次いで 0 人が 26.3% と多かった。



③男女・既婚/未婚・就業形態・年齢・年収別の予定子ども数・理想的な子ども数

男女・就業形態・年齢・年収別の予定子ども数・理想的な子ども数は以下の通りであった。女性、既婚者、就業形態が家事従業・内職、その他の仕事、専業主婦・主夫の者、若年層、年収の高い者に関しては予定子ども数や理想子ども数が多い傾向が見られた。

		予定子ども数		理想的な子ども数	
		該当数	平均値	該当数	平均値
SQ1(性別)	男性	453	1.17	453	1.61
	女性	602	1.40	602	1.78
SQ4(既婚/未婚)	結婚している	602	1.68	602	2.07
	結婚していないが、結婚していたことがある	80	1.46	80	1.64
	結婚したことがない	378	0.68	378	1.14
SQ4(既婚/未婚)	既婚	602	1.68	602	2.07
	未婚	458	0.82	458	1.22
Q3(就業形態)	正社員・正規職員	499	1.35	499	1.77
	契約社員	31	1.19	31	1.52
	派遣・嘱託職員	38	0.87	38	1.29
	パートタイム・アルバイト・非常勤	229	1.41	229	1.72
	自営業・自由業	52	1.08	52	1.44
	家族従業・内職	7	1.57	7	2.29
	その他の仕事	2	2.00	2	2.00
	専業主婦・主夫	101	1.76	101	2.20
	学生・生徒	20	1.00	20	1.85
	無職	72	0.57	72	0.89
その他	9	1.00	9	1.89	
SQ2(年齢)	20歳以上24歳以下	51	1.35	51	1.73
	25歳以上29歳以下	71	1.51	71	1.87
	30歳以上34歳以下	113	1.46	113	1.75
	35歳以上39歳以下	140	1.41	140	1.77
	40歳以上44歳以下	191	1.34	191	1.80
	45歳以上49歳以下	256	1.18	256	1.65
	50歳以上54歳以下	238	1.21	238	1.58
Q7(年収)	0万円以上100万円未満	122	1.32	122	1.59
	100万円以上200万円未満	156	1.53	156	1.78
	200万円以上300万円未満	145	1.21	145	1.63
	300万円以上400万円未満	122	1.07	122	1.55
	400万円以上500万円未満	103	1.30	103	1.68
	500万円以上600万円未満	83	1.29	83	1.69
	600万円以上700万円未満	58	1.33	58	2.02
	700万円以上800万円未満	32	1.34	32	1.97
	800万円以上900万円未満	21	2.05	21	2.33
	900万円以上1,000万円未満	7	1.57	7	2.14
	1,000万円以上	15	1.33	15	1.80

④理想的な子ども数別の予定子ども数

理想的な子ども数別の予定子ども数の分布は、以下の通りであった。

理想的な子ども数が増えるに連れ、理想的な子ども数＝予定子ども数とする者の割合が減少している他、理想的な子ども数＞予定子ども数の平均値となっている。理想的な子ども数が3人以上の場合、予定子ども数が理想的な子ども数を下回る者が半数以上となっている。

		Q15(予定子ども数)							平均値
		該当数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	
Q16(理想的な子ども数)	0人	279	263	6	6	3	1	0	0.11人
		100.0	94.3	2.2	2.2	1.1	0.4	0.0	
	1人	80	19	55	2	3	0	1	0.91人
		100.0	23.8	68.8	2.5	3.8	0.0	1.3	
	2人	423	83	84	241	13	1	1	1.45人
		100.0	19.6	19.9	57.0	3.1	0.2	0.2	
	3人	246	21	25	83	108	5	4	2.26人
100.0		8.5	10.2	33.7	43.9	2.0	1.6		
4人	20	2	0	0	11	7	0	3.05人	
	100.0	10.0	0.0	0.0	55.0	35.0	0.0		
5人以上	12	0	2	0	3	1	6	4.00人	
	100.0	0.0	16.7	0.0	25.0	8.3	50.0		

[参考]

調査時点等が異なるため単純比較はできないが、令和3年6月に実施された「出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）」（国立社会保障・人口問題研究所）における同種の設問と今回の調査を比較した結果、予定数も理想数も今回の方が少ない結果となった。なお、サンプルの属性の差異をできる限りなくすよう、社人研調査における年齢の構成比に合わせて回答をウェイトバック集計している。

	社人研調査 (n=4, 350)	今回調査 (n=466)
予定子ども数	2.01	1.73
理想的な子ども数	2.25	2.15

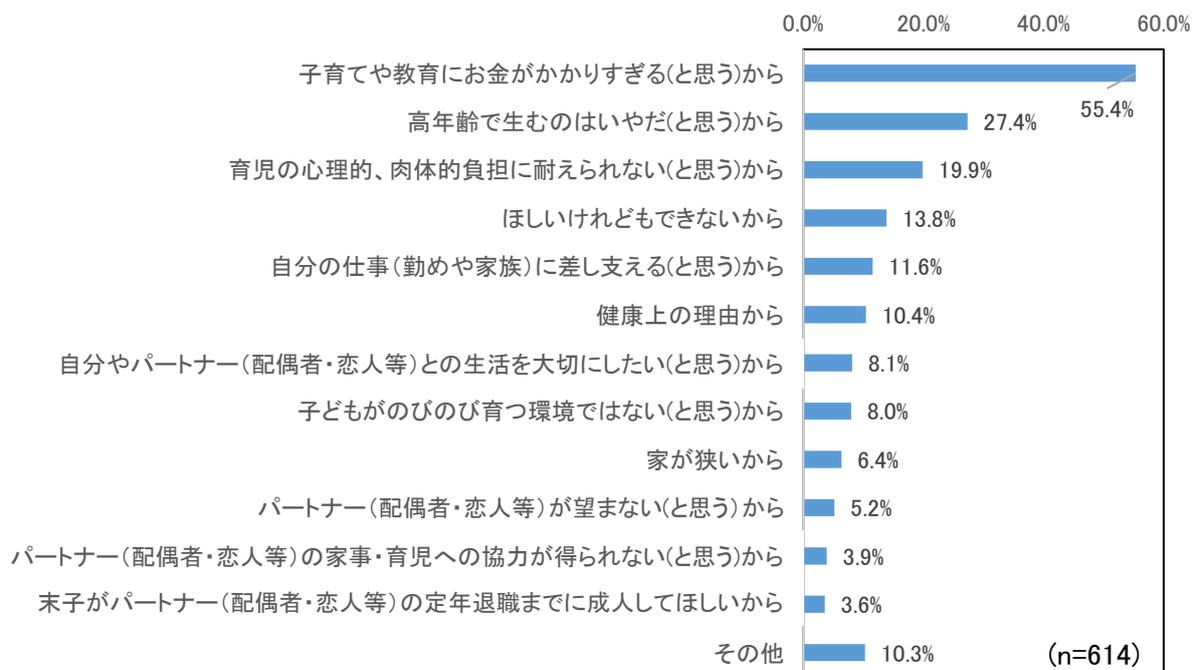
(※社人研調査は夫婦を対象としている。)

(19) 理想的な子どもの数が0人か、予定子ども数を上回っている理由

① 単純集計

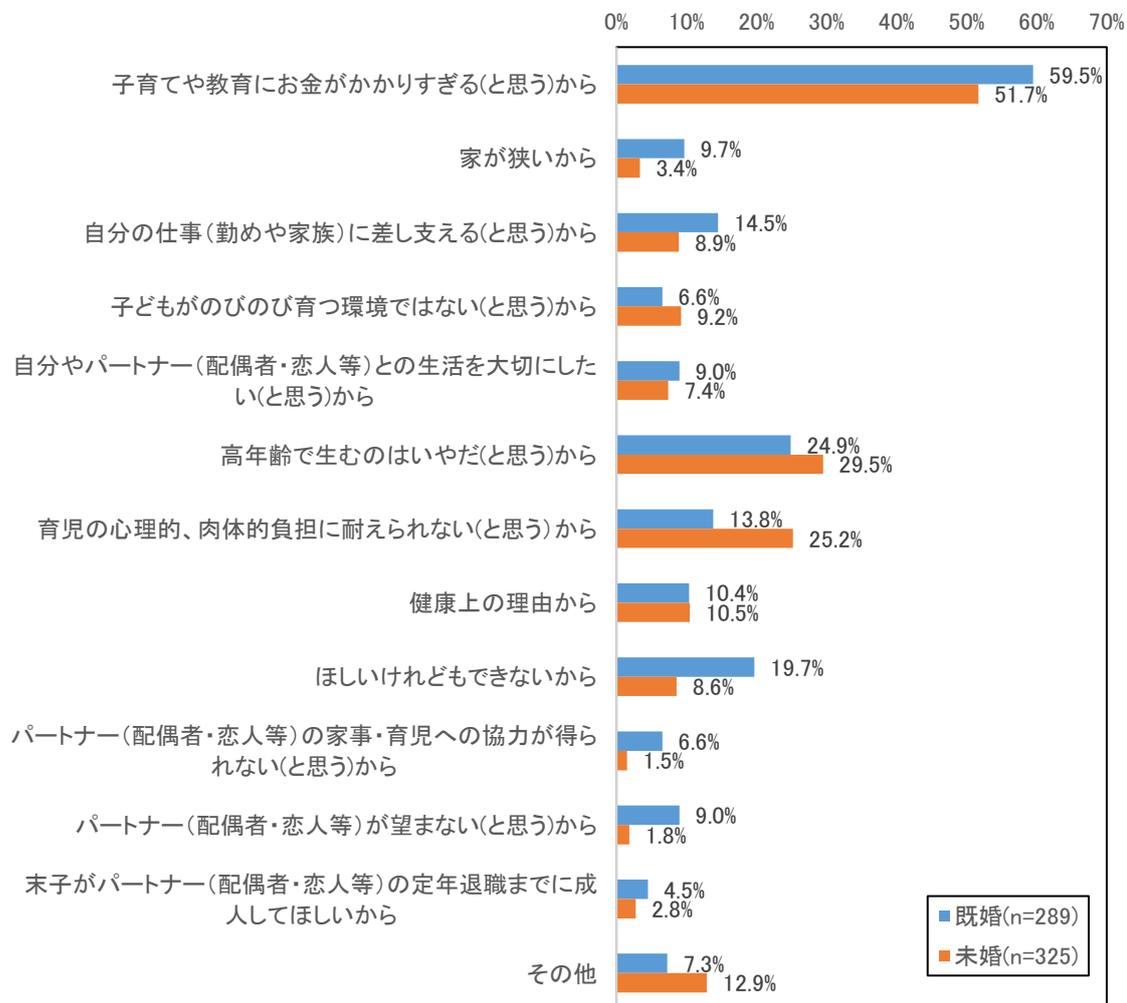
理想的な子どもの数が0人か、予定子ども数を上回っている理由として、最も多いのは「子育てや教育にお金がかかりすぎる(と思う)から」(55.4%)であり、次いで「高年齢で生むのはいやだ(と思う)から」(27.4%)であった。

その他の理由としては「税金ばかり上がって給料が上がらない」「つわりの苦しみと出産の痛みが怖いから」等が挙げられた。



②既婚/未婚別の理由

既婚/未婚共に「子育てや教育にお金がかかりすぎる(と思う)から」が最も多く、次いで「高年齢で生むのはいやだ(と思う)から」が多かった。「家が狭いから」や「自分の仕事(勤めや家族)に差し支える(と思う)から」「ほしいけれどもできないから」は既婚者の方が多く、「育児の心理的、肉体的負担に耐えられない(と思う)から」は未婚者の方が多かった。



③男女別・年齢別の理由

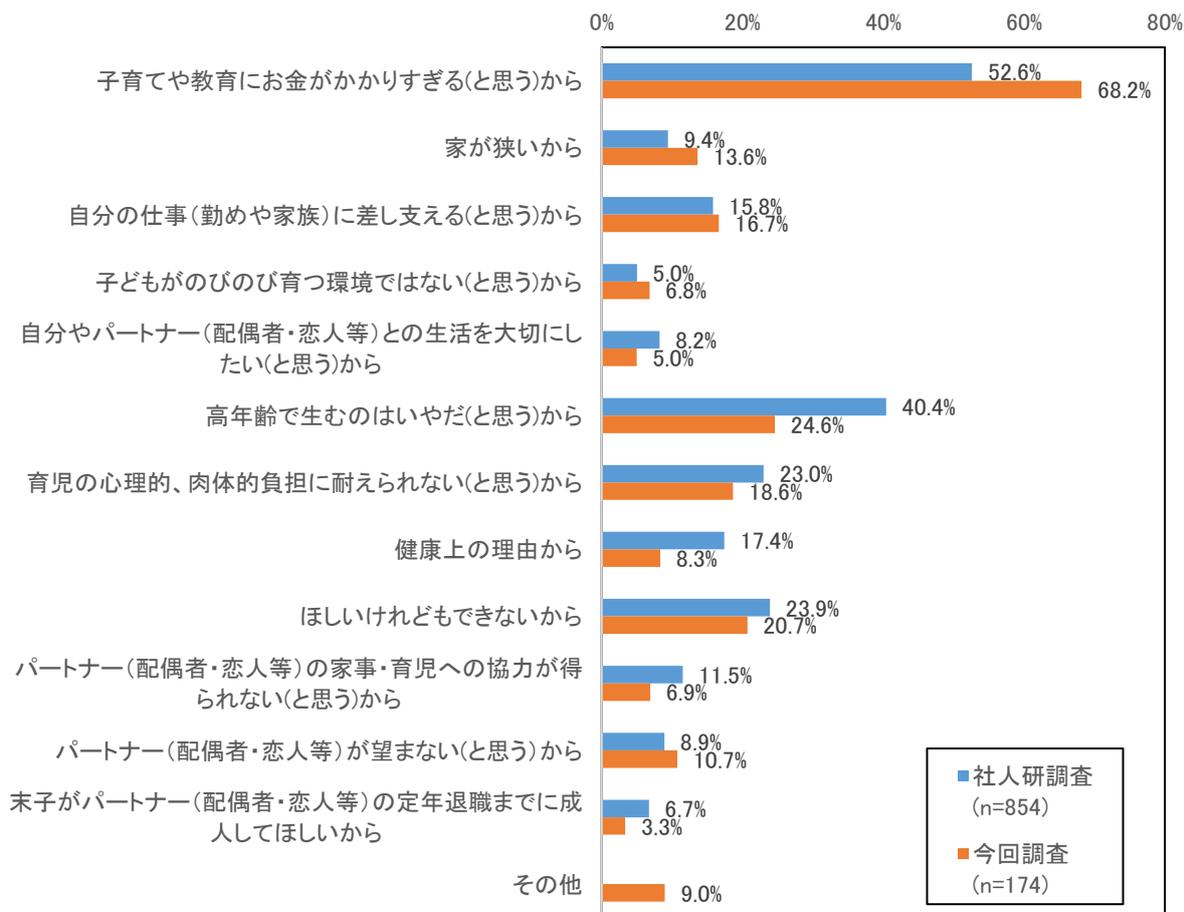
「子育てや教育にお金がかかりすぎる(と思う)から」を除くと、男性の場合は、20代は「自分の仕事(勤めや家族)に差し支える(と思う)から」を選ぶ者が多かった。30代は「育児の心理的、肉体的な負担に耐えられない(と思う)から」を選ぶ者が多かった。40代以降では「高年齢で生むのはいやだ(と思う)から」を挙げる者が多かった。女性の場合は、20代・30代共に「育児の心理的、肉体的負担に耐えられない(と思う)から」を挙げる者が多く、40代以降では「高年齢で生むのはいやだ(と思う)から」を挙げる者が多かった。

		該当数	子育てや教育にお金がかかりすぎる(と思う)から	家が狭いから	自分の仕事(勤めや家族)に差し支える(と思う)から	子どもがのびのび育つ環境ではない(と思う)から	自分やパートナー(配偶者・恋人等)との生活を大切にしたい(と思う)から	高年齢で生むのはいやだ(と思う)から	育児の心理的、肉体的負担に耐えられない(と思う)から	健康上の理由から	ほしいけれどもできないから	パートナー(配偶者・恋人等)の家事・育児への協力が得られない(と思う)から	パートナー(配偶者・恋人等)が望まない(と思う)から	末子がパートナー(配偶者・恋人等)の定年退職までに成人してほしいから	その他	
SQ1(性別)×SQ2(年齢)	男性	20歳以上24歳以下	4 100.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0
		25歳以上29歳以下	6 100.0	3 50.0	2 33.3	3 50.0	1 16.7	2 33.3	0 0.0	1 16.7	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		30歳以上34歳以下	13 100.0	9 69.2	0 0.0	3 23.1	3 23.1	0 0.0	0 0.0	4 30.8	0 0.0	1 7.7	0 0.0	1 7.7	0 0.0	1 7.7
		35歳以上39歳以下	37 100.0	26 70.3	1 2.7	2 5.4	6 16.2	3 8.1	7 18.9	9 24.3	4 10.8	5 13.5	0 0.0	1 2.7	0 0.0	4 10.8
		40歳以上44歳以下	47 100.0	23 48.9	4 8.5	7 14.9	3 6.4	8 17.0	10 21.3	9 19.1	3 6.4	4 8.5	3 6.4	4 8.5	4 8.5	5 10.6
		45歳以上49歳以下	87 100.0	42 48.3	8 9.2	9 10.3	5 5.7	7 8.0	30 34.5	5 5.7	11 12.6	19 21.8	0 0.0	6 6.9	2 2.3	4 4.6
		50歳以上54歳以下	79 100.0	44 55.7	2 2.5	3 3.8	7 8.9	7 8.9	24 30.4	12 15.2	9 11.4	4 5.1	4 5.1	5 6.3	5 6.3	9 11.4
	女性	20歳以上24歳以下	20 100.0	11 55.0	0 0.0	4 20.0	0 0.0	2 10.0	2 10.0	6 30.0	1 5.0	0 0.0	1 5.0	0 0.0	2 10.0	3 15.0
		25歳以上29歳以下	28 100.0	22 78.6	3 10.7	2 7.1	6 21.4	1 3.6	1 3.6	7 25.0	2 7.1	3 10.7	2 7.1	3 10.7	1 3.6	3 10.7
		30歳以上34歳以下	41 100.0	29 70.7	4 9.8	7 17.1	5 12.2	1 2.4	4 9.8	18 43.9	1 2.4	4 9.8	6 14.6	3 7.3	0 0.0	8 19.5
		35歳以上39歳以下	46 100.0	30 65.2	4 8.7	8 17.4	4 8.7	2 4.3	14 30.4	15 32.6	5 10.9	5 10.9	1 2.2	3 6.5	2 4.3	3 6.5
		40歳以上44歳以下	68 100.0	37 54.4	5 7.4	7 10.3	2 2.9	1 1.5	29 42.6	15 22.1	12 17.6	11 16.2	2 2.9	1 1.5	0 0.0	8 11.8
		45歳以上49歳以下	75 100.0	36 48.0	4 5.3	11 14.7	2 2.7	11 14.7	24 32.0	12 16.0	9 12.0	12 16.0	5 6.7	1 1.3	4 5.3	6 8.0
		50歳以上54歳以下	59 100.0	24 40.7	2 3.4	3 5.1	4 6.8	4 6.8	22 37.3	7 11.9	7 11.9	16 27.1	0 0.0	2 3.4	2 3.4	9 15.3

[参考]

調査時点等が異なるため単純比較はできないが、令和3年6月に実施された「出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）」（国立社会保障・人口問題研究所）における同種の設問と今回の調査を比較した結果、「高年齢で生むのはいやだ（と思う）から」や「健康上の理由から」は社人研調査の方が5ポイント以上多く、「子育てや教育にお金がかかりすぎる（と思う）から」が今回調査の方が5ポイント以上多かった。

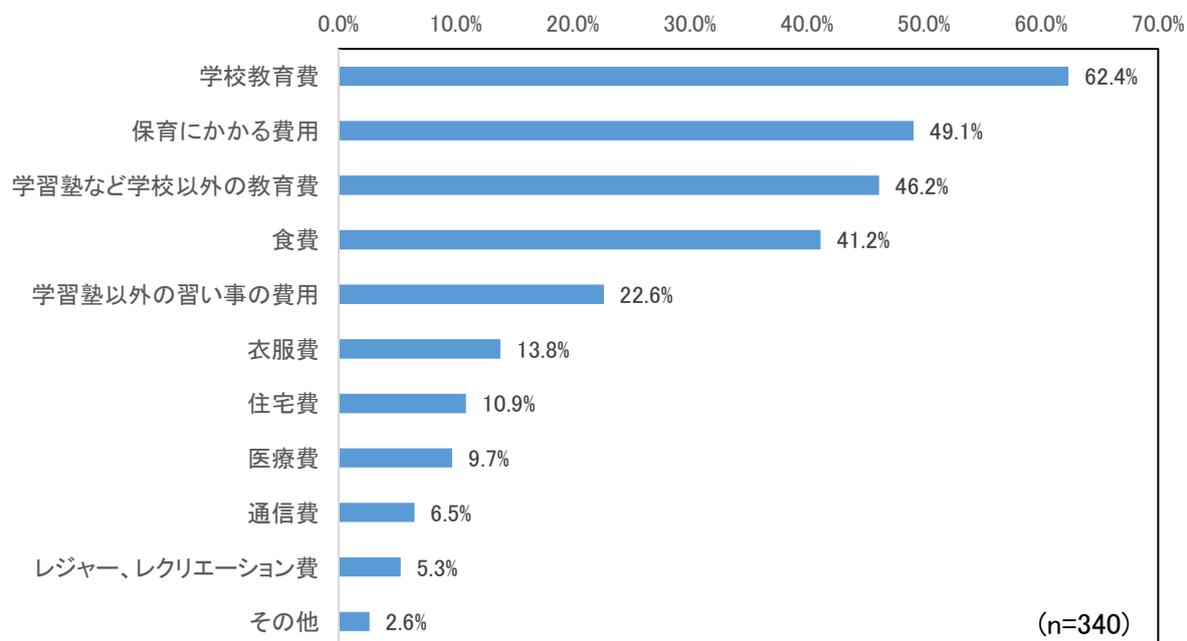
なお、社人研調査においては、未婚者及び「理想的な子どもの数が0人の者」には尋ねていないため、その者は下記の集計からは除いている。また、サンプルの属性の差異をできる限りなくすよう、内閣府調査における年齢の構成比に合わせて回答をウェイトバック集計している。



(20) 子育てや教育にかかる負担の内容

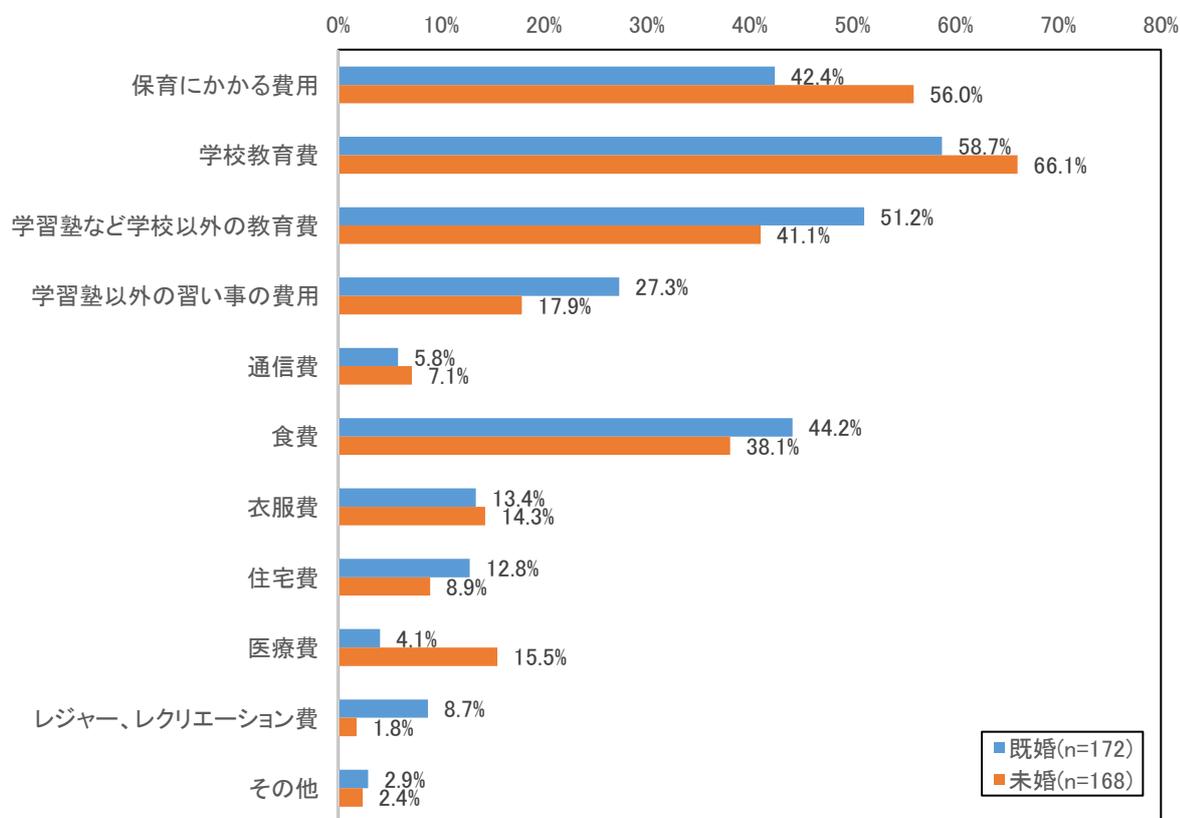
① 単純集計

前問にて「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」と回答した者にその負担の内容を尋ねたところ、最も多いのは「学校教育費」(62.4%)であり、次いで「保育にかかる費用」(49.1%)であった。



②既婚/未婚別の負担の内容

既婚者・未婚者共に学校教育費が最も多数であったが、既婚者については学習塾など学校以外の教育費が、未婚者については保育にかかる費用が二番目に多かった。保育にかかる費用や学校教育費、医療費は未婚者の方が5ポイント以上回答する者が多かった。



③年齢・就業形態・年収・世帯年収別の負担の内容

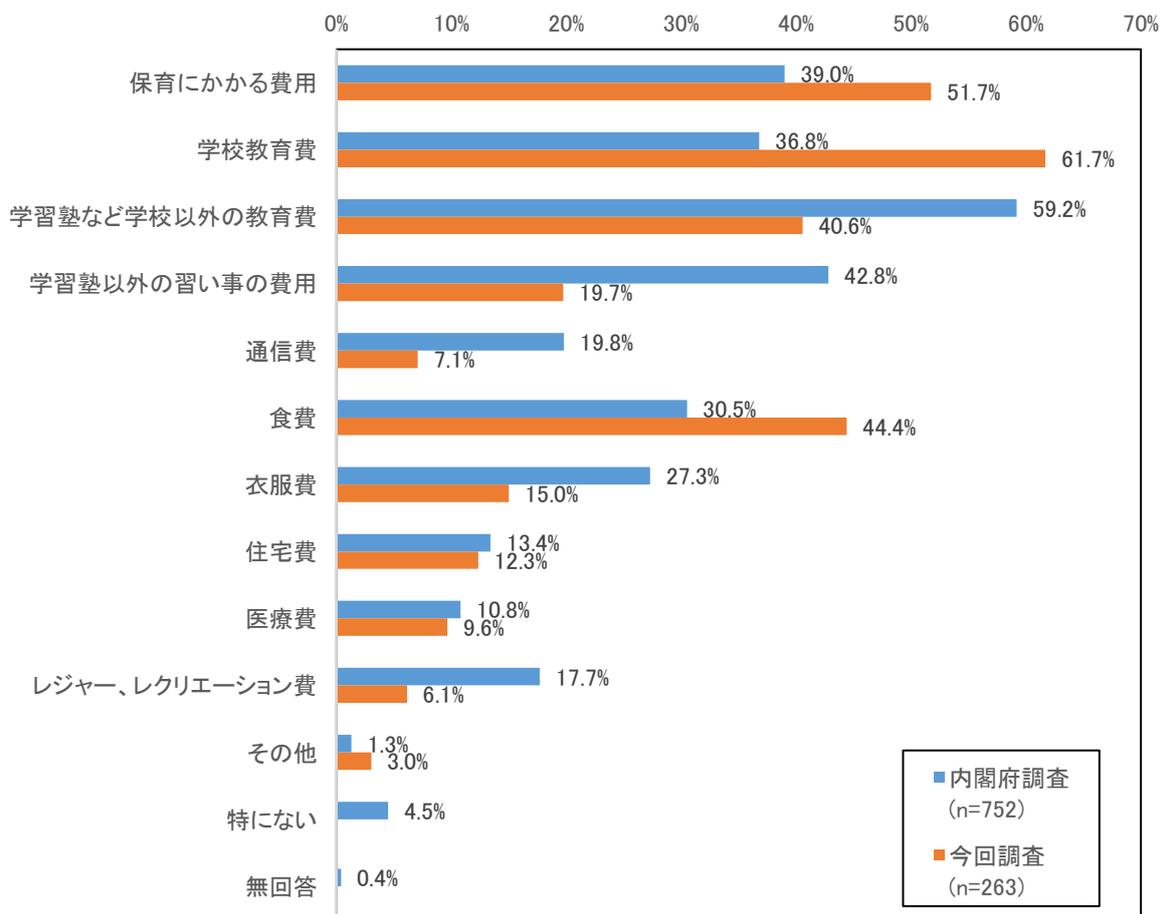
20代では「保育にかかる費用」及び「食費」が多かった。30代では「食費」及び「学校教育費」が多かった。40代前半では「学習塾など学校以外の教育費」が多かった。40代後半・50代前半では「学校教育費」及び「学習塾など学校以外の教育費」が多かった。

多くの年収・世帯年収帯において「学校教育費」が多いことは共通していたが、低年収・世帯年収帯では「食費」及び「保育にかかる費用」を、中間層では「保育にかかる費用」を、高年収・世帯年収帯では「学習塾など学校以外の教育費」を負担に感じている者が多かった。

		該当数	保育にかかる費用	学校教育費	学習塾など学校以外の教育費	学習塾以外の習い事の費用	通信費	食費	衣服費	住宅費	医療費	レジャー、レクリエーション費	その他
SQ2(年齢)	20歳以上24歳以下	12 100.0	6 50.0	9 75.0	5 41.7	2 16.7	1 8.3	6 50.0	0 0.0	2 16.7	0 0.0	0 0.0	1 8.3
	25歳以上29歳以下	25 100.0	19 76.0	13 52.0	5 20.0	2 8.0	0 0.0	14 56.0	3 12.0	6 24.0	3 12.0	1 4.0	1 4.0
	30歳以上34歳以下	38 100.0	17 44.7	21 55.3	11 28.9	6 15.8	2 5.3	22 57.9	14 36.8	4 10.5	5 13.2	2 5.3	1 2.6
	35歳以上39歳以下	57 100.0	29 50.9	38 66.7	22 38.6	15 26.3	3 5.3	24 42.1	6 10.5	5 8.8	7 12.3	8 14.0	0 0.0
	40歳以上44歳以下	60 100.0	25 41.7	31 51.7	30 50.0	18 30.0	5 8.3	26 43.3	11 18.3	10 16.7	4 6.7	2 3.3	2 3.3
	45歳以上49歳以下	80 100.0	41 51.3	54 67.5	43 53.8	13 16.3	9 11.3	27 33.8	7 8.8	5 6.3	6 7.5	4 5.0	3 3.8
	50歳以上54歳以下	68 100.0	30 44.1	46 67.6	41 60.3	21 30.9	2 2.9	21 30.9	6 8.8	5 7.4	8 11.8	1 1.5	1 1.5
	55歳以上59歳以下	151 100.0	74 49.0	101 66.9	75 49.7	37 24.5	9 6.0	51 33.8	21 13.9	20 13.2	10 6.6	4 2.6	3 1.9
Q3(就業形態)	正社員・正規職員	12 100.0	6 50.0	5 41.7	9 75.0	4 33.3	1 8.3	5 41.7	3 25.0	0 0.0	2 16.7	0 0.0	0 0.0
	契約社員	15 100.0	11 73.3	7 46.7	7 46.7	1 6.7	1 6.7	8 53.3	2 13.3	1 6.7	4 26.7	0 0.0	1 6.7
	派遣・嘱託職員	76 100.0	29 38.2	41 53.9	30 39.5	19 25.0	6 7.9	40 52.6	15 19.7	9 11.8	10 13.2	6 7.9	3 3.9
	パートタイム・アルバイト・非常勤	13 100.0	7 53.8	9 69.2	8 61.5	1 7.7	1 7.7	6 46.2	1 7.7	2 15.4	1 7.7	1 7.7	0 0.0
	自営業・自由業	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	家族従業・内職	0 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	その他の仕事	32 100.0	13 40.6	23 71.9	17 53.1	11 34.4	1 3.1	12 37.5	1 3.1	3 9.4	2 6.3	6 18.8	1 0.0
	専業主婦・主夫	7 100.0	4 57.1	6 85.7	4 57.1	1 14.3	0 0.0	3 42.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	学生・生徒	30 100.0	21 70.0	17 56.7	5 16.7	3 10.0	2 6.7	14 46.7	4 13.3	2 6.7	4 13.3	1 3.3	2 6.7
	無職	3 100.0	2 66.7	2 66.7	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3
	その他	105 100.0	46 43.8	69 65.7	39 37.1	24 22.9	6 5.7	47 44.8	14 13.3	8 7.6	10 9.5	10 9.5	4 3.8
	Q7(年収)	100万円未満	54 100.0	23 42.6	29 53.7	33 61.1	12 22.2	4 7.4	29 53.7	6 11.1	5 9.3	7 13.0	2 3.7
100万円以上200万円未満		50 100.0	27 54.0	22 44.0	14 28.0	7 14.0	4 8.0	29 58.0	15 30.0	11 22.0	8 16.0	2 4.0	2 4.0
200万円以上300万円未満		42 100.0	25 59.5	28 66.7	23 54.8	13 31.0	3 7.1	11 26.2	5 11.9	4 9.5	3 7.1	0 0.0	0 0.0
300万円以上400万円未満		34 100.0	18 52.9	25 73.5	17 50.0	9 26.5	3 8.8	11 32.4	2 5.9	2 5.9	3 8.8	2 5.9	1 2.9
400万円以上500万円未満		24 100.0	16 66.7	17 70.8	13 54.2	4 16.7	2 8.3	6 25.0	2 8.3	2 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
500万円以上600万円未満		16 100.0	5 31.3	12 75.0	8 50.0	3 18.8	0 0.0	4 25.0	1 6.3	1 25.0	4 0.0	1 6.3	0 0.0
600万円以上700万円未満		7 100.0	3 42.9	5 71.4	5 71.4	2 28.6	0 0.0	1 14.3	1 14.3	0 0.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0
700万円以上800万円未満		5 100.0	3 60.0	2 40.0	3 60.0	2 40.0	0 0.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
800万円以上900万円未満		1 100.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
900万円以上1,000万円未満		1 100.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
1,000万円以上		24 100.0	11 45.8	16 66.7	6 25.0	5 20.8	1 4.2	9 37.5	4 16.7	0 0.0	3 12.5	1 4.2	1 4.2
Q8(世帯年収)		100万円未満	21 100.0	12 57.1	7 33.3	10 47.6	5 23.8	2 9.5	9 42.9	2 9.5	1 4.8	4 19.0	0 0.0
	100万円以上200万円未満	37 100.0	19 51.4	23 62.2	13 35.1	5 13.5	4 10.8	21 56.8	9 24.3	4 10.8	5 13.5	1 2.7	0 0.0
	200万円以上300万円未満	43 100.0	22 51.2	30 69.8	21 48.8	8 18.6	1 2.3	17 39.5	5 11.6	6 14.0	3 7.0	0 0.0	0 0.0
	300万円以上400万円未満	50 100.0	27 54.0	30 60.0	19 38.0	10 20.0	2 4.0	26 52.0	9 18.0	6 12.0	6 12.0	5 10.0	1 2.0
	400万円以上500万円未満	39 100.0	23 59.0	24 61.5	15 38.5	8 20.5	3 7.7	15 38.5	6 15.4	6 15.4	2 5.1	2 5.1	3 7.7
	500万円以上600万円未満	39 100.0	16 41.0	23 59.0	17 43.6	10 25.6	1 2.6	21 53.8	7 17.9	4 10.3	3 7.7	1 2.6	1 2.6
	600万円以上700万円未満	31 100.0	16 51.6	21 67.7	19 61.3	8 25.8	4 12.9	7 22.6	2 6.5	2 6.5	1 3.2	2 6.5	1 3.2
	700万円以上800万円未満	23 100.0	7 30.4	12 52.2	14 60.9	6 26.1	2 8.7	7 30.4	2 8.7	5 21.7	3 13.0	4 17.4	0 0.0
	800万円以上900万円未満	8 100.0	3 37.5	4 50.0	7 87.5	4 50.0	0 0.0	3 37.5	0 0.0	1 12.5	0 0.0	1 12.5	0 0.0
	900万円以上1,000万円未満	24 100.0	10 41.7	21 87.5	16 66.7	8 33.3	2 8.3	5 20.8	1 4.2	2 8.3	2 8.3	1 4.2	0 0.0
	1,000万円以上												

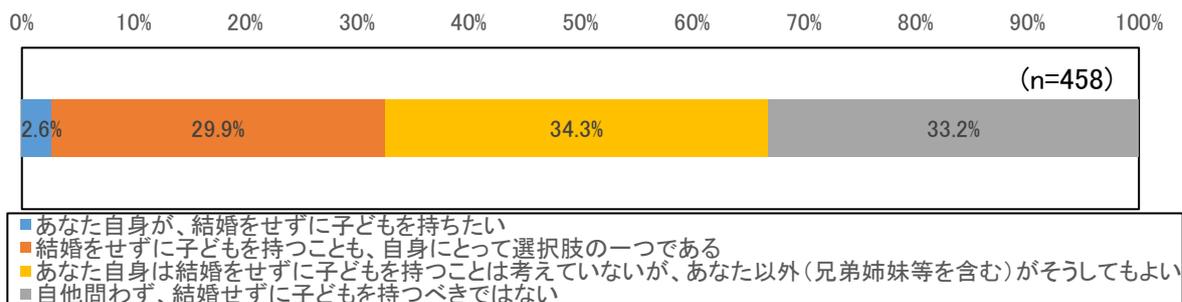
[参考]

調査時点等が異なるため単純比較はできないが、令和2年度「少子化社会に関する国際意識調査」報告書（内閣府）における同種の設問と今回の調査を比較した結果、「学習塾など学校以外の教育費」や「学習塾以外の習い事の費用」、「通信費」「衣服費」「レジャー、レクリエーション費」は内閣府調査の方が5ポイント以上多く、「保育にかかる費用」や「学校教育費」、「食費」が5ポイント以上今回調査の方が多かった。サンプルの属性の差異をできる限りなくすよう、内閣府調査における年齢・性別の構成比に合わせて回答をウェイトバック集計している。



(21) 婚外子について

未婚者に婚外子についての考え方を尋ねたところ、回答者自身は結婚をせずに子どもを持つことは考えていないが、回答者以外（兄弟姉妹等を含む）がそうしてもよいとする者が34.3%と最も多く、次いで「自他問わず、結婚せずに子どもを持つべきではない」（33.2%）が多かった。



(23) 自由回答（県に求める支援策）

主な回答を以下の通り抜粋した。

【未婚者】

- 結婚や出産についてわからないことが多すぎて不安なので、気軽に相談できる環境が整っていると嬉しいです。(26歳、女性)
- AI マッチング (27歳、女性)
- 私は昔から母子家庭で育ち、母は週6で働いていた。非正規雇用だった為、1日休むと給料、生活に影響が出るからと殆ど休まなかった。母は県外出身者なので頼れる身内もおらず精神的にも体力的にも大変だったと思う。同じアパートにシングルマザーが住んでいるが目の前にある実家で生活をしておりやりくりをしている。県内に親族がいない人や非正規雇用の家庭(本当に困っている家庭)に支援をしてあげてほしいと思う。また、子育てや結婚に直接関係ないかもしれないが山梨は車の所有が当たり前になっていて維持費がとても大きいと感じている。(29歳、女性)
- 支援策を広く周知すること(30歳、男性)
- 甲府市長選挙である候補が公約に掲げていたように、山梨県を廃止して神奈川県など周辺の都県と合併すること。住所が山梨県というだけで県外の人から相手にされなくなる。個人の主観ではなく、結婚相談所のアドバイザー談。かといって、山梨県内では候補になる人がいなさすぎる。(37歳、男性)
- 高齢になっても妊娠の可能性が残るように、若いうちから凍結保存の支援をして、妊娠できる期間の可能性を広げるような支援があったら自分も子供を持つことが出来たかと思う。(46歳、女性)
- 参加しやすい婚活パーティーがあれば参加したい。結婚祝い金があれば嬉しい。(46歳、女性)
- 税金のために共働きを推奨したいのはわからないでもないですが、育児は仕事の片手間にできるほど簡単なものではありません。託児所などに預け育児放棄して働けばいいやではなく、最低でも就学までは少なくとも一人の親が働かず責任をもって育児に専念できる環境をつくるのが必須だと思います。(47歳、男性)
- 子育て世帯だけでない全般の支援があった方がいいと思います。個人的には子育て支援「しか」していない今の状況がおかしいと思います。(49歳、女性)
- 私は未婚でパートナーとの子供が欲しく不妊治療を希望したが婚姻関係にないと治療できないと言われ結局子供をあきらめました。未婚でも子供が欲しかったです。(50歳、女性)
- 安定して働ける職場と首都圏と大差ない賃金体系の企業を抱え込むこと。ここが増えていかないと労働層人口が増えていかない。首都圏からリタイアした中高年層が移住して人口が増えても数年すると高齢化して医療費などイニシャルコストが掛かるので考えもの。(53歳、男性)

【既婚者】

- 市役所や役場から結婚支援金があればいい。もっとおむつを補助するところが増えればいいと思う。(24歳、女性)
- 妊婦でも就職できる場所(25歳、女性)

- 子育て世代の税率を下げしてほしい。もしくは給付金等の金銭的な支援をもっとしてほしい。上記のようなことは無理なので女性も働けと言うなら未満児を預けられる認可保育園の定員を増やしてほしい。預けられないのに働けなんて無理がある。(27歳、女性)
- 出産費用が高いイメージ(27歳、女性)
- コミュニティづくりの場の創出と提供(33歳、男性)
- 保育料の無償化、出産の祝い金、入園入学進学の祝い金、小さな子供の遊べる室内遊び場の充実など。(33歳、女性)
- 不妊治療だけではなく、妊活開始から助成をしていただきたいです。サプリや食事療法の改善など体質改善するために今まで以上にお金がかかります。物価高の影響もあり家計に支障があるので、妊活に対しての支援策を検討していただきたいです。(34歳、女性)
- 高校や大学など進学に関する教育費の全額免除(41歳、男性)
- 男性に対する育児支援と企業の意識改革。このアンケートのように、配偶者(特に男性)が育児協力しないような選択肢があるが、男性を悪者にしすぎ。男性だって育児したいが、企業側の都合でできない(女性もそうだが)。サービス残業(一応、8時間労働らしいが)を強いられてるのに、長年、行政、立法が是正しようと本気で動こうとしない。常に男が悪者。男が主夫になるのには冷たいのに、常に、女性側から視点で出産、子育てを語ってるバイアスがかかった論調にうんざりする。制度設計の前のベースの分析が表面的で偏った視点しかないから、制度が不完全で機能しない。企業に対する妊娠、子育ての意識改革と財政的補助を現物(お金)に加え、ソフト面でも行政側の働きかけをしてほしい。(41歳、男性)

5. (参考) 回帰分析

既婚者の予定子ども数にどのような要素が影響を与えているかを調べるために、重回帰分析¹を行った。調査対象は既婚男性・既婚女性とし、それぞれ、以下のデータを説明変数とすることを考えた。

【既婚男性】	【既婚女性】
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 本人の年収 ➤ 正社員・正規職員か否か ➤ 就労時間 ➤ 配偶者の就労時間 ➤ 配偶者が家事育児に協力的か否か(「協力的である」または「やや協力的である」を協力的であるとした) ➤ 集合家族か否か 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 世帯年収 ➤ 就労時間 ➤ 配偶者の就労時間 ➤ 配偶者が家事育児に協力的か否か(「協力的である」または「やや協力的である」を協力的であるとした) ➤ 集合家族か否か

なお、一定の水準までは子どもの数と年収や就業時間に相関があり、一定の水準を超えると影響がなくなるという可能性を考慮し、年収または世帯年収が1,500万円以上の者、及び就業時間や配偶者の就業時間が13時間以上の者を集計対象から除外した。

まず、多重共線性²の問題が生じていないかを確認するために、各説明変数のVIF³を確認した(一般的には、VIFが10より大きいと多重共線性の問題が生じていると言われている)。その結果、下表の通り、男女共に多重共線性の問題は生じていなかった。

		VIF
男性	本人の年収	1.32
	正社員・正規職員	1.22
	就労時間	1.18
	配偶者の就労時間	1.05
	配偶者の家事育児協力	1.07
	集合家族	1.06
女性	世帯年収	1.11
	就労時間	1.05
	配偶者の就労時間	1.06
	配偶者の家事育児協力	1.02
	集合家族	1.01

¹ データに基づいて、ある指標(目的変数)に対し、複数の指標(説明変数)がどの程度影響しているか(回帰係数)を調べるための統計的分析手法のこと。今回は目的変数(予定子ども数)に対して、説明変数(年収や世帯年収、正社員・正規職員等)がどの程度影響しているか(回帰係数)を調べる。説明変数が3つの場合、目的変数を y 、説明変数を x_1, x_2, x_3 、回帰係数を a, b, c とすると、 $y=ax_1+bx_2+cx_3$ の a, b, c の部分データを基づいて推定することになる。

² 説明変数の中に高い相関の組み合わせが存在する(モデル内の一部の説明変数が他の説明変数と強く相関している)こと。例えば、「足の速さ」を目的変数、「身長」「座高」を説明変数とした際に、身長と座高には通常強い相関関係があるため、多重共線性の問題が生じていると言える。多重共線性の問題が発生している場合、有意な相関関係があるにもかかわらずそれが見られないということ(β エラー(第二種の過誤))が起りやすくなる。

³ 分散拡大要因(Variance Inflation Factor)のこと。説明変数がどの程度他の説明変数と相関があるかを示す指標であり、VIFが高いと多重共線性が疑われる。

それぞれの説明変数を標準化⁴した上で、重回帰分析を行った。結論としては、男性については本人の年収に 10%有意水準で有意な正の相関⁵が見られた ($p < 0.10$)⁶。すなわち、子どもの数について、男性の場合は本人の年収が影響している可能性が示唆された。

		P値	相関	回帰係数
男性	本人の年収	0.10	$p < 0.10$	0.12
	正社員・正規職員	0.34		0.07
	就労時間	0.38		-0.06
	配偶者の就労時間	0.59		0.04
	配偶者の家事育児協力	0.13		0.10
	集合家族	0.45		0.05
女性	世帯年収	0.41		0.05
	就労時間	0.71		0.02
	配偶者の就労時間	0.58		0.03
	配偶者の家事育児協力	0.86		-0.01
	集合家族	0.35		-0.05

[留意点]

今回の調査で相関が見られなかったことが、直ちに政策としての有効性を否定するわけではない⁷。

⁴ 重回帰分析により複数の回帰係数を比較する際、そのままでは「円」と「時間」のような異なる単位の説明変数の回帰係数を比べることはできない(仮に「時間」を「分」に変えたら値が変化することを考えると分かりやすい)。単位による影響を排するために、通常「標準化」が行われる。具体的には、それぞれの観測値(データ)を平均が 0、標準偏差が 1 になるように変換(z 得点化)した上で重回帰分析を行う。

⁵ 回帰係数が正の数であれば正の相関が見られることを意味し、負の数であれば負の相関が見られることを意味する。回帰係数の絶対値が大きいほど影響力が強いことを意味する。

⁶ 得られた回帰係数より極端に乖離した結果が出る(帰無仮説(相関がないという仮説)が採用される)確率のことを p 値という。すなわち、p 値が高いほど有意な相関がない確率が高く、p 値が低いほど有意な相関がある確率が高いことになる。p 値が 0.10 より小さければ 10%有意水準で有意、0.05 より小さければ 5%有意水準で有意、0.01 より小さければ 1%有意水準で有意となる。

⁷ アメリカ統計協会は、『統計的有意性と P 値に関する ASA 声明(The ASA Statement on p-Values: Context, Process, and Purpose)』の中で、「科学的な結論や、ビジネス、政策における決定は、p 値が有意水準を超えたかどうかのみに基づくべきではない」と述べている。同声明は、p 値は研究のデザインや測定の質、研究対象である事象のこれまでのエビデンス、データ解析の背後にある仮設の妥当性等の背景情報を加味した上でなければ適切な推論は難しいことを強調している。本稿についても、あくまでも参考情報として掲載する趣旨である。

6. 今後に向けた示唆

(1) 30代以降の結婚支援にあたっては、特に男性の所得増や雇用の安定に向けた取組が有効

男女別の既婚/未婚(p. 5)から、男性は女性と比較して未婚者が多い。男性の現在の就業形態と既婚/未婚との関係(p. 9)より、既婚者には正社員・正規職員が多く、未婚者にはそれ以外の者が多いことが分かる。就業形態別の結婚の希望(p. 19)を見ても、「以前は結婚したかったが、現在はするつもりがない」者は正社員・正規職員や学生よりもその他の者の方が少ない。また、男女・既婚/未婚別の平均年収(p. 14)より、男性の既婚者は未婚者と比較して年収が高いことが分かる。さらに、男性の結婚していない理由(p. 24)を見ると、「結婚資金が足りない」や「結婚後の生活資金が足りないと思う」、「仕事がない・安定していない」は相対的に高い割合にあることが分かる。加えて、男女別・年収別の結婚していない理由(p. 25-26)でも収入の低い者に「仕事がない・安定していない」や「結婚後の生活資金が足りないと思う」を挙げる者が多かった。「男性の異性の恋人が欲しいのにできない理由(p. 37)としても、「自分の経済力が異性にとって魅力的ではないと思う」が多く挙げられている。こうしたことから、所得増や雇用の安定に向けた取組を行い、男性の結婚を促していくことが少子化対策に有効であることが示唆される。なお、年齢別に異性の恋人がほしいのに実際にはいない理由を集計したところ(p. 38)、20代に関しては、自らの経済力を理由に恋人ができていないと考える者も、経済力を持つ異性との出会いがないことを理由に恋人ができていないと考える者も少なく、経済力は主に30代以降において重要になると考えられる。

(2) 20代には、異性へのアプローチの仕方を教示するような取組が効果的

年代別に異性の恋人がほしいのに実際にはいない理由を集計したところ(p. 38)、20代においては「異性との付き合い方が分からない」「自分の性格や人柄が異性にとって魅力的ではないと思う」が比較的多かった。20代のような若年層に対して異性へのアプローチの方法を教示するような機会の提供が効果的である可能性がある。

(3) 女性を中心に、未婚者への恋愛や結婚に向けた機運の醸成に力を入れることが必要

平成22年度「少子化対策に関する国際意識調査」(内閣府)と今回の調査を比較したところ、今回調査の方が将来的に結婚したいと考える者が大幅に少なかった(p. 22)。山梨県の実際の未婚率は全国平均より低いが、意識のレベルとしては、山梨県民の結婚に対する意思が全国と比較して弱い可能性が示唆される。また、男女別に恋人の希望について尋ねたところ(p. 33)、女性の方が恋人が欲しいと考える者が少なかった。さらに、女性の結婚していない理由(p. 24)を見ると、「自由な時間や気楽さを失いたくない」や「結婚の必要性を感じない」、「趣味や娯楽を楽しみたい」が比較的上位である。女性を中心に結婚に肯定的な印象を持っていない者が多くいることを示唆され、こうした者に結婚の機運の醸成を図る施策が重要であると考えられる。

(4) 未婚者に対する金銭面でのネガティブイメージの払拭も効果的

既婚/未婚別の負担の内容(p. 48)を見ると、保育にかかる費用や学校教育費、医療費は未婚者の方が回答する者が多く、これらについては、実態よりも大きな負担を想像している未婚者が多いことが示唆される。こうした金銭面での過剰なネガティブイメージを払拭するような施策も効果的である可能性がある。

(5) 結婚支援に向けて、出会いの場を増やす対策が重要

男性がやや多いが、男女共に、結婚・出産以前にそもそも友人関係も含めた異性との交際をしていない者が多い(p. 31)。恋人がいない理由として最も多いのは、男女共に「そもそも出会いの場所がない」(p. 37)である。男女の出会いの場を提供するような施策が有効である可能性が示唆される。なお、既婚者が配偶者と知り合ったきっかけとして「インターネットで」は比較的多数を占めており(p. 39)、SNS やマッチングアプリのようなサービスが少子化対策に寄与する可能性がある。

(6) 有配偶出生率の向上に向けても、所得増に向けた取組が重要

令和3年6月に実施された「出生動向基本調査(結婚と出産に関する全国調査)」(国立社会保障・人口問題研究所)と今回の調査を比較したところ、今回の調査の方が回答者の予定子ども数・理想的な子ども数共に少なかった(p. 42)。これは、山梨県の夫婦が全国の夫婦と比較して、子どもを産みにくい・そもそも子どもを産みたいと思わない傾向にある可能性を示唆している。就業形態や年収別の予定子ども数や理想的な子ども数を算出したところ、概ね収入が高いほど予定子ども数・理想的な子ども数が多い傾向にあった。また、理想的な子どもの数が0人の者と、予定子ども数が理想的な子どもの数を下回っている者にその理由を尋ねたところ(p. 43)、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が多数を占めており、社人研の調査よりも高い割合であった(p. 46)。回帰分析の結果からも、男性の年収と予定子ども数に有意な相関が見られた(p. 53)。夫婦の所得増や雇用の安定を図るような施策を行うことが有配偶出生率の向上に向けて重要である可能性が高い。なお、予定子ども数・理想的な子ども数が共に2人の者の平均世帯年収は549.55万円であり(p. 17)、社人研調査に合わせてウェイトバック集計した際の平均的な理想的な子ども数である2.15人(p. 42)や、人口置換水準である2.07人に近い2人の子どもを産むためには、目安としてこの程度の所得は必要であると考えられる。

(7) 学校教育費や保育にかかる費用の負担減への取組が求められる

理想的な子どもの数が0人の者と、予定子ども数が理想的な子どもの数を下回っている者の理由として「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」を挙げた者に負担の内容を尋ねたところ(p. 47)、「学校教育費」や「保育にかかる費用」が多数を占めていた。全国を対象とした令和2年度「少子化社会に関する国際意識調査」報告書(内閣府)と比較しても、学校教育費や保育に係る費用を負担に感じている者は多く、こうした負担を軽減するような施策が求められる。

(8) 低所得層は食費に負担

年収や世帯年収別の負担の内容を見たところ(p. 49)、低所得層では食費を負担に感じる者が多かった。食事に対する補助や支援を行い、生活基盤を整えていくことが少子化対策に有効である可能性が高い。

(9) まずは低所得層への支援が重要

高所得層の負担の内容を見ると、「学習塾など学校以外の保育費」が多数を占めた(p. 49)。こうした負担は、子供の生活に必要な不可欠なものではなく、子育ての質の向上を図るための負担である。高所得層に支援を行っても、既に生まれた子どもの塾代等に支出され、出生率の増加にはあまり寄与しない可能性が高い。(8)で述べた通り、まずは低所得者層に向けて食費のような必要な生活基盤の確保を支援することの方が少子化対策にとっては有効であると考えること

ができる。

(10) 多くの者は婚外子に肯定的

未婚者に婚外子についての考え方を尋ねたところ (p. 50)、「自他問わず、結婚せずに子どもを持つべきではない」は 33.2%に留まり、過半数は結婚をせずに子どもを持つことに肯定的な考え方を示している。また、自らが婚外子を持つことが選択肢の一つであると回答した者も 32.5%にのぼった。スウェーデンにおける「サムボ法⁸」のような、結婚していない同棲者を保護して婚外子の存在を認めるような少子化対策を実施することを視野に入れることも考えられる。

⁸ 結婚していない同棲者に対して、婚姻している夫婦とほぼ同様に権利を与え保護する法律。生まれた子どもの法的な扱いも法律婚の子どものと差がない。こうした制度の影響があり、スウェーデンにおける非嫡出子の割合は 5 割を超えている。

7. 調査画面

【山梨県からの調査依頼】山梨県民の結婚・妊娠・出産、子育てに関するアンケート

【山梨県からのアンケートのお願い】

平素から山梨県政の推進につきまして深いご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

県では、急速に進行する少子高齢化、人口減少対策についてより効果的な施策を推進するため、この度、県民の皆様に結婚・妊娠・出産、子育てなどについてご意向を伺うアンケート調査を実施することといたしました。

この調査はWebアンケートの登録モニター様を対象とし、お答えは全て統計的に処理されますので、個人が特定されることは一切ございません。

また、皆様のご回答が、今後のより良い県民サービス、山梨の明るい未来の創生につながりますので、ご多忙のこととは存じますが、何卒調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

【調査内容等に関するお問い合わせ】

山梨県リニア未来創造局二拠点居住推進課
nikyoten@pref.yamanashi.lg.jp

※アンケートの回答方法等、システムに関するお問い合わせは、ご参加されていますアンケート調査サイトのお問い合わせ窓口までお願いいたします。

❗ 推奨環境について

アンケートにお答えいただくには下記の環境が必要です。

OS / ブラウザ

- | | |
|---|----------------------------------|
| ・ Microsoft Windows 8.1 / 10
Microsoft Edge
Firefox
Chrome | ・ iOS 14 / 15 / 16
Safari |
| | ・ Android 10 / 11 / 12
Chrome |

その他の設定、プラグインについて

- ・ JavaScriptを有効にしてください。
- ・ Cookieを有効（受け入れる）にしてください。

❗ アンケート内で知り得た情報について

当アンケートには機密情報が含まれます。当アンケートの内容や知り得た情報は第三者に口外・開示しないようお願いいたします。

※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。
(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

対象外条件 SC2_1 < 20 または SC2_1 > 54 (即時回答終了)

対象外条件 SC3 = 「2. 山梨県以外」 (即時回答終了)

アンケート画面開始

Page 1

SC1

必須設定 回答必須

SC1

あなたの性別を教えてください。

- 1 男性
- 2 女性
- 3 回答しない

次へ

0 50 100(%)

Page 2

SC2

対象外条件 SC2_1 < 20 または SC2_1 > 54 (即時回答終了)

- カテゴリ 1歳

必須設定 回答必須

回答制御 回答範囲「0~99」に該当しない場合はアラートを表示

SC2

あなたの年齢を教えてください。

歳

次へ

0 50 100(%)

SC3

必須設定 回答必須

対象外条件 SC3 = 「2. 山梨県以外」(即時回答終了)

SC3

あなたの居住地を教えてください。

- 1 山梨県
- 2 山梨県以外

次へ

0 50 100(%)

SC4

必須設定 回答必須

SC4

あなたは結婚していますか。

- 1 結婚している
- 2 結婚していないが、結婚していたことがある
- 3 結婚したことがない

次へ

0 50 100(%)

Q1

必須設定 回答必須

回答制御 排他カテゴリ「9. 同居家族はいない」に該当しない場合はアラートを表示

- カテゴリ 1.配偶者

回答者条件 SC4 = 「1. 結婚している」

- カテゴリ 2.養育している子ども

- カテゴリ 2.養育している子どもの詳細入力 1

必須設定 回答必須

入力文字数 2文字まで

回答制御 回答が半角数字 に該当しない場合はアラートを表示

回答制御 $Q1_SNT2_1 \geq 1$ かつ $Q1_SNT2_1 \leq 10$ に該当しない場合はアラートを表示

- カテゴリ 8.その他

- カテゴリ 8.その他の詳細入力 1

必須設定 回答必須

入力文字数 100文字まで

Q1

あなたの同居家族を教えてください。

(いくつでも)

同居家族がない場合は、「同居家族はいない」を選択してください。

- 1 配偶者
- 2 養育している子ども 人
- 3 父親(配偶者の父親を含む)
- 4 母親(配偶者の母親を含む)
- 5 祖父母
- 6 孫
- 7 兄弟姉妹
- 8 その他 具体的に:
- 9 同居家族はいない

次へ

0 50 100(%)

Q2

必須設定 回答必須

回答者条件 SC4 = 「1. 結婚している」

Q2

あなたの配偶者は、家事や育児に協力的ですか。

- 1 協力的である
- 2 やや協力的である
- 3 やや協力的でない
- 4 協力的でない

次へ

0 50 100(%)

表示条件 SC4 = 「2. 結婚していないが、結婚していたことがある」、「3. 結婚したことがない」

Q3

あなたと、あなたの配偶者の、現在の就業形態を教えてください。
(それぞれひとつずつ)

Q3_1

必須設定 回答必須

- カテゴリ 8.専業主婦・主夫

回答者条件 SC4 = 「1. 結婚している」

- カテゴリ 11.その他

- カテゴリ 11.その他 の詳細入力 1

必須設定 回答必須

入力文字数 100文字まで

Q3_2

必須設定 回答必須

回答者条件 SC4 = 「1. 結婚している」

- カテゴリ 11.その他

- カテゴリ 11.その他 の詳細入力 1

必須設定 回答必須

入力文字数 100文字まで

	1	2
	あなたの就業形態	配偶者の就業形態
正社員・正規職員	1 ○	1 ○
契約社員	2 ○	2 ○
派遣・嘱託職員	3 ○	3 ○
パートタイム・アルバイト・非常勤	4 ○	4 ○

自営業・自由業	5	<input type="radio"/>	5	<input type="radio"/>
家族従業・内職	6	<input type="radio"/>	6	<input type="radio"/>
その他の仕事	7	<input type="radio"/>	7	<input type="radio"/>
専業主婦・主夫	8	<input type="radio"/>	8	<input type="radio"/>
学生・生徒	9	<input type="radio"/>	9	<input type="radio"/>
無職	10	<input type="radio"/>	10	<input type="radio"/>
その他	11	<input type="radio"/>	11	<input type="radio"/>
	具体的に:	<input type="text"/>	具体的に:	<input type="text"/>
	あなたの就業形態		配偶者の就業形態	
	1		2	

次へ

0 50 100(%)

Q5

回答者条件 (Q3_1 = 「1. 正社員・正規職員」～「7. その他の仕事」) または Q3_1 = 「11. その他」

- カテゴリ 1.時間

必須設定 回答必須

回答制御 回答範囲「0～24」に該当しない場合はアラートを表示

Q5

あなたの、おおよその1日(就業日)の就労時間(残業も含む)を教えてください。
小数点以下は四捨五入してください。

時間

Q6

回答者条件 (Q3_2 = 「1. 正社員・正規職員」～「7. その他の仕事」) または Q3_2 = 「11. その他」

- カテゴリ 1.時間

必須設定 回答必須

回答制御 回答範囲「0～24」に該当しない場合はアラートを表示

Q6

あなたの配偶者の、おおよその1日(就業日)の就労時間(残業も含む)を教えてください。
小数点以下は四捨五入してください。

時間

次へ

0 50 100(%)

Q7

回答者条件 (Q3_1 = 「1. 正社員・正規職員」～「7. その他の仕事」) または Q3_1 = 「11. その他」

- カテゴリ 1. 税込/万円

必須設定 回答必須

回答制御 回答範囲「0～999999」に該当しない場合はアラートを表示

Q7

あなた自身の、昨年(2022年)1月から12月までのおおよその年収を税込で教えてください。小数点以下は四捨五入してください。

税込 万円

Q8

回答者条件 Q1 = 「1. 配偶者」～「8. その他」

- カテゴリ 1. 税込/万円

必須設定 回答必須

回答制御 回答範囲「0～999999」に該当しない場合はアラートを表示

回答制御 (Q8_1 >= Q7_1) または Q7_1 = null に該当しない場合はアラートを表示

Q8

あなたを含めたあなたの同居家族の、昨年(2022年)1月から12月までのおおよその世帯年収(あなたを含めた同居家族全員の年収を足し合わせたもの)を税込で教えてください。小数点以下は四捨五入してください。

税込 万円

次へ

0 50 100(%)

Q9

必須設定 回答必須

回答者条件 SC4 = 「2. 結婚していないが、結婚していたことがある」, 「3. 結婚したことがない」

Q9

あなたは、結婚するつもりはありますか。

- 1 すぐにでも結婚したい
- 2 2～3年以内に結婚したい
- 3 いずれは結婚したい
- 4 以前は結婚したかったが、現在はするつもりがない
- 5 もともと結婚するつもりがない

次へ

0 50 100(%)

Q10	必須設定	回答必須
	回答者条件	SC4 = 「2. 結婚していないが、結婚していたことがある」、「3. 結婚したことがない」
		- カテゴリ 21.その他
		- カテゴリ 21.その他 の詳細入力 1
	必須設定	回答必須
	入力文字数	100文字まで

Q10

あなたが現在結婚していない理由について、当てはまるものを全て選んでください。
(いくつでも)

- 1 まだ若い
- 2 適当な相手に巡り合わない
- 3 趣味や娯楽を楽しみたい
- 4 異性とうまく付き合えない
- 5 仕事がない・安定していない
- 6 制度上結婚できない
- 7 自由な時間や気楽さを失いたくない
- 8 結婚資金が足りない
- 9 自分の自由になるお金が少なくなる
- 10 結婚後の生活資金が足りないと思う
- 11 結婚の必要性を感じない
- 12 結婚後の住まいのめどが立たない
- 13 現在の生活レベルを落とすたくない
- 14 親や周囲が同意しない
- 15 親の扶養・同居の問題を抱えている
- 16 仕事に打ち込みたいから/仕事がしづらくなる
- 17 義父母や親戚など人間関係が複雑になる
- 18 相手が結婚に乗り気ではない
- 19 相手に結婚できない事情がある
- 20 仕事が忙しすぎる
- 21 その他 具体的に:

次へ

0 50 100(%)

Q11

必須設定 回答必須

回答者条件 SC4 = 「2. 結婚していないが、結婚していたことがある」, 「3. 結婚したことがない」

Q11

あなたには、交際している人がいますか。

- 1 婚約者がいる
- 2 婚約者はいないが、恋人として交際している異性がいる
- 3 婚約者はいないが、恋人として交際している同性がいる
- 4 恋人として交際している人はいないが、友人として交際している異性がいる
- 5 恋人として交際している人や、友人として交際している異性はいない

次へ

0 50 100(%)

Q12

必須設定 回答必須

回答者条件 Q11 = 「4. 恋人として交際している人はいないが、友人として交際している異性がいる」, 「5. 恋人として交際している人や、友人として交際している異性はいない」

Q12

あなたは異性の恋人がほしいですか。

- 1 はい
- 2 いいえ

次へ

0 50 100(%)

Q13

必須設定 回答必須

回答者条件 Q12 = 「1. はい」

回答制御 回答個数値 (Q13) <= 3 に該当しない場合はアラートを表示

- カテゴリ 15.その他

- カテゴリ 15.その他 の詳細入力 1

必須設定 回答必須

入力文字数 100文字まで

Q13

あなたが異性の恋人がほしいのに、実際にはいない理由として、最も当てはまるものから**3つまで**を選んでください。(3つまで)

- 1 異性との付き合い方が分からない
- 2 自分の学歴が異性にとって魅力的ではないと思う
- 3 自分の職業が異性にとって魅力的ではないと思う
- 4 自分の経済力が異性にとって魅力的ではないと思う
- 5 自分の性格や人柄が異性にとって魅力的ではないと思う
- 6 自分の容姿が異性にとって魅力的ではないと思う
- 7 自分の望むような学歴を持つ異性との出会いがない
- 8 自分の望むような職業に就いている異性との出会いがない
- 9 自分の望むような経済力を持つ異性との出会いがない
- 10 自分の望むような性格や人柄の異性との出会いがない
- 11 自分の望むような容姿の異性との出会いがない
- 12 共通の趣味を持つ異性との出会いがない
- 13 仕事等が忙しく、男女交際をする余裕がない
- 14 そもそも出会いの場所がない
- 15 その他 具体的に:

次へ

0 50 100(%)

Q14

必須設定 回答必須

回答者条件 SC4 = 「1. 結婚している」

- カテゴリ 11.その他

- カテゴリ 11.その他 の詳細入力 1

必須設定 回答必須

入力文字数 100文字まで

Q14

あなたが配偶者と知り合ったきっかけを教えてください。

- 1 職場や仕事で
- 2 友人・兄弟姉妹を通じて
- 3 学校で
- 4 街なかや旅先で
- 5 サークル・クラブ・習いごとで
- 6 アルバイトで
- 7 幼なじみ・隣人
- 8 結婚相談所で
- 9 見合いで
- 10 インターネットで
- 11 その他 具体的に:

次へ

0 50 100(%)

Q15

- カテゴリ 1.人

必須設定 回答必須

回答制御 回答範囲「0~20」に該当しない場合はアラートを表示

回答制御 (Q15_1 >= Q1_SNT2_1) または Q1_SNT2_1 = null に該当しない場合はアラートを表示

Q15

将来的に、あなたが全部で何人のお子さんを持つ予定(既にいる子どもの数も含める)か教えてください。

子どもをもうける予定がない場合は、0をご入力ください。

人

Q16

- カテゴリ 1.人

必須設定 回答必須

回答制御 回答範囲「0~20」に該当しない場合はアラートを表示

Q16

実際の予定は別として、あなたの理想的な子どもの数は何人ですか。

子どもはいないという場合は、0をご入力ください。

人

次へ

0 50 100(%)

Q17

必須設定 回答必須

回答者条件 $Q16_1 = 0$ または $Q15_1 < Q16_1$

回答制御 回答個数値 (Q17) ≤ 3 に該当しない場合はアラートを表示

- カテゴリ 13.その他

- カテゴリ 13.その他 の詳細入力 1

必須設定 回答必須

入力文字数 100文字まで

Q17

理想的な子どもの数が0人の方と、予定する子どもの数が、理想的な子どもの数を下回っている方にお伺いします。

その理由として、最も当てはまるものから**3つまで**選択してください。(3つまで)

- 1 子育てや教育にお金がかかりすぎる○○○(ITEM_PARAGRAPH_Q17回答再掲)から
- 2 家が狭いから
- 3 自分の仕事(勤めや家族)に差し支える○○○(ITEM_PARAGRAPH_Q17回答再掲)から
- 4 子どもがのびのび育つ環境ではない○○○(ITEM_PARAGRAPH_Q17回答再掲)から
- 5 自分やパートナー(配偶者・恋人等)との生活を大切にしたい
○○○(ITEM_PARAGRAPH_Q17回答再掲)から
- 6 高年齢で生むのはいやだ○○○(ITEM_PARAGRAPH_Q17回答再掲)から
- 7 育児の心理的、肉体的負担に耐えられない○○○(ITEM_PARAGRAPH_Q17回答再掲)から
- 8 健康上の理由から
- 9 ほしいけれどもできないから
- 10 パートナー(配偶者・恋人等)の家事・育児への協力が得られない
○○○(ITEM_PARAGRAPH_Q17回答再掲)から
- 11 パートナー(配偶者・恋人等)が望まない○○○(ITEM_PARAGRAPH_Q17回答再掲)から
- 12 末子がパートナー(配偶者・恋人等)の定年退職までに成人してほしいから
- 13 その他 具体的に:

次へ

0 50 100(%)

Q18

必須設定 回答必須

回答者条件 Q17 = 「1. 子育てや教育にお金がかかりすぎる〇〇〇(ITEM_PARAGRAPH_Q17回答再掲)から」

回答制御 回答個数値 (Q18) <= 3 に該当しない場合はアラートを表示

- カテゴリ 11.その他
- カテゴリ 11.その他 の詳細入力 1

必須設定 回答必須

入力文字数 100文字まで

Q18

「子育てや教育にお金がかかりすぎる〇〇〇(ITEM_PARAGRAPH_Q17回答再掲)から」と回答した方にお伺いします。

主にどのような負担が大きいと思いますか。

最も当てはまるものから**3つまで**選択してください。(3つまで)

- 1 保育にかかる費用
- 2 学校教育費
- 3 学習塾など学校以外の教育費
- 4 学習塾以外の習い事の費用
- 5 通信費
- 6 食費
- 7 衣服費
- 8 住宅費
- 9 医療費
- 10 レジャー、レクリエーション費
- 11 その他 具体的に:

次へ

0 50 100(%)

Q19

必須設定 回答必須

回答者条件 SC4 = 「2. 結婚していないが、結婚していたことがある」, 「3. 結婚したことがない」

Q19

結婚をせずに子どもをもつことに対して、あなたの考えに最も近いものを選択してください。

- 1 あなた自身が、結婚をせずに子どもを持ちたい
- 2 結婚をせずに子どもを持つことも、自身にとって選択肢の一つである
- 3 あなた自身は結婚をせずに子どもを持つことは考えていないが、あなた以外(兄弟姉妹等を含む)がそうしてもよい
- 4 自他問わず、結婚せずに子どもを持つべきではない

次へ

0 50 100(%)

Q20

- カテゴリ 1.FA

必須設定 無回答可

入力文字数 1000文字まで

Q20

山梨県は県民が安心して結婚・出産・子育てができるよう支援しています。
あなたの結婚や出産にはどのような支援策が県にあると良いですか。
ご自由にご記入ください。

送信

0 50 100(%)